

有機農産物に関する意識調査結果

今治市有機農業推進協議会では、市民の食生活や有機農産物に対する意識を調査するため、次のようなアンケート調査を実施した。

1. 調査の目的

食生活や有機農産物に対する市民の意識を調査分析することにより、有機農産物に対する需要や問題点等を浮き彫りにし今後の有機農業の推進のための手法を明らかにするもの。

2. 調査の対象

今治市在住 20 ~ 80 歳の一般市民 2,000 名（無作為抽出）

3. 調査の方法

郵送で配布し、回収した。
調査票の内容は別紙のとおり。

4. 調査実施日

平成 21 年 2 月 1 日（日）～平成 21 年 2 月 15 日（日）

5. 回収率

配布数 2,000 通に対し、回収数 790 通、回収率は 39.5%であった。

配布数	2,000 枚
回収数	790 枚
回収率	39.5%

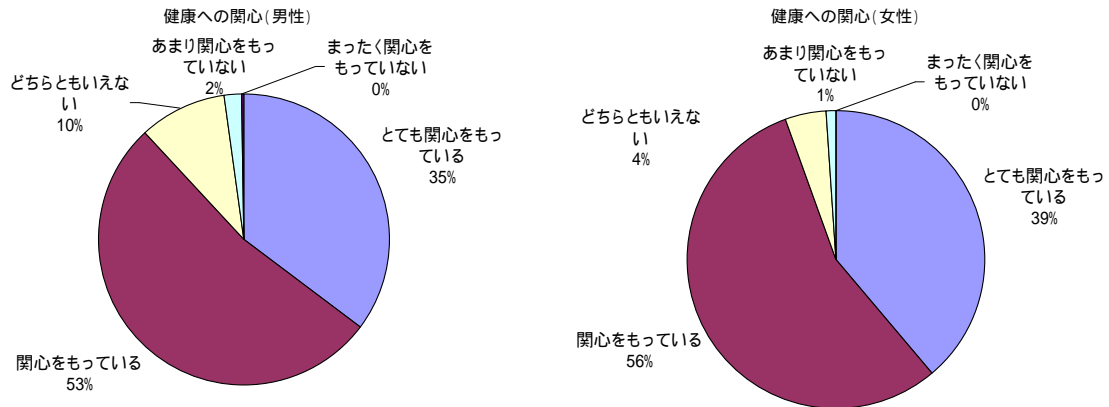
回収結果のフェイスシート

	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
男性	260名	25名	38名	37名	45名	72名	43名
女性	530名	40名	83名	68名	122名	123名	94名
計	790名	65名	121名	105名	167名	195名	137名

主婦	293人(男性 1人、女性292人)	その他	115人(男性62人、女性53人)
パート・アルバイト	77人(男性 6人、女性 71人)	卸売・小売・飲食	65人(男性36人、女性67人)
製造業	61人(男性45人、女性 16人)	公務員	42人(男性27人、女性15人)
サービス業	42人(男性12人、女性 30人)	農林業	40人(男性23人、女性17人)
自由業	23人(男性17人、女性 6人)	運輸・通信	20人(男性17人、女性 3人)
建設業	17人(男性16人、女性 1人)	学生	15人(男性 7人、女性 8人)
電気・ガス等	8人(男性 7人、女性 1人)	金融・保険	6人(男性 4人、女性 2人)
水産業	3人(男性 2人、女性 1人)		

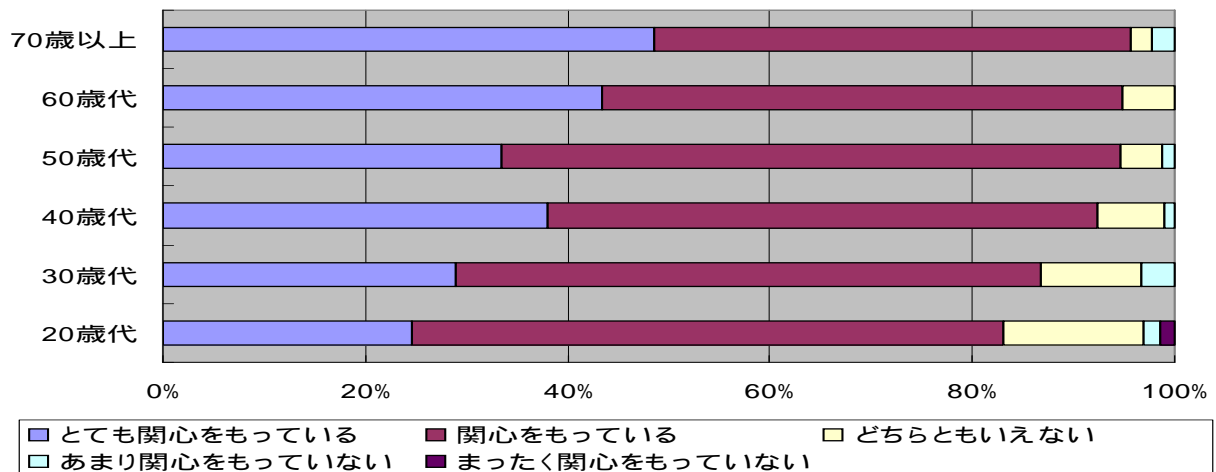
6. 調査の結果と分析

1) 健康について



ご自身やご家族の健康にどれくらい関心を持っているかと尋ねたところ、92%が健康に関心を持っていると回答している。また、男女ともに健康への関心は高いが男性よりも女性のほうが健康に関心をもっている割合が高い。

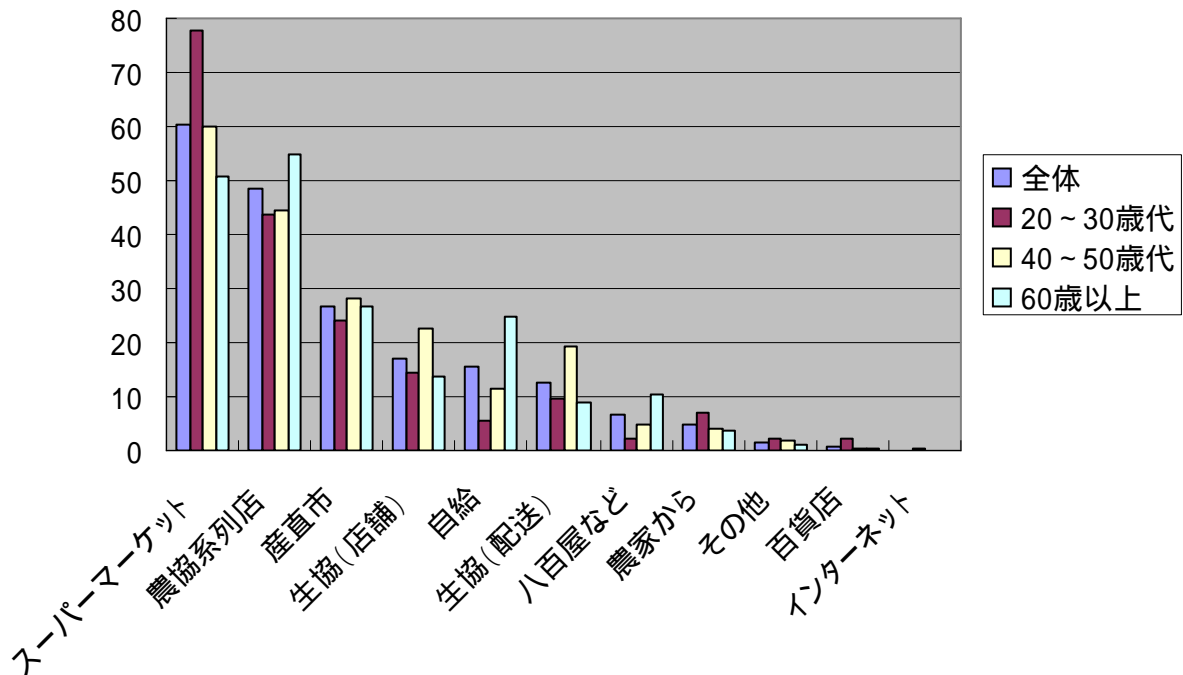
健康への関心(年代別)



また、年齢が高くなるにつれて、健康への関心も高くなっていることがわかる。

2) 食材を購入する場所について

食材を購入する場所



次に食材を購入する場所を尋ねたところ、最も多かったのは「フジ、サティ、M2、まるひろ、セブンスター、マルナカなどのスーパーマーケット」で全体の60.3%を占めている。

次に多かったのは「Aコープやくみあいマーケットなどの農協系店舗」で48.6%と半数近くの人が利用している。これにより大半の人はスーパーと農協系列店で食材を購入していることがわかる。

また、年齢別にみると20～30歳代は約8割がスーパーを利用しており、60歳以上の25%が家庭菜園などで自給している点が他の年代と比べて特徴的である。

さらに、20～30歳代の動向と平成15年度に26歳を対象に今治市で実施した「食生活と地産地消の取り組みに関する意識調査」と比較すると、当時産直市を利用すると回答したのは、14.5%であったが、今回は24.1%と10ポイント高くなっており、若い世代でも産直市を活用する人が増えていることがわかる。このことは、平成19年に大型の直売施設が開設されたことが影響していると思われる。

3) 食材を選ぶときに注意をしていること

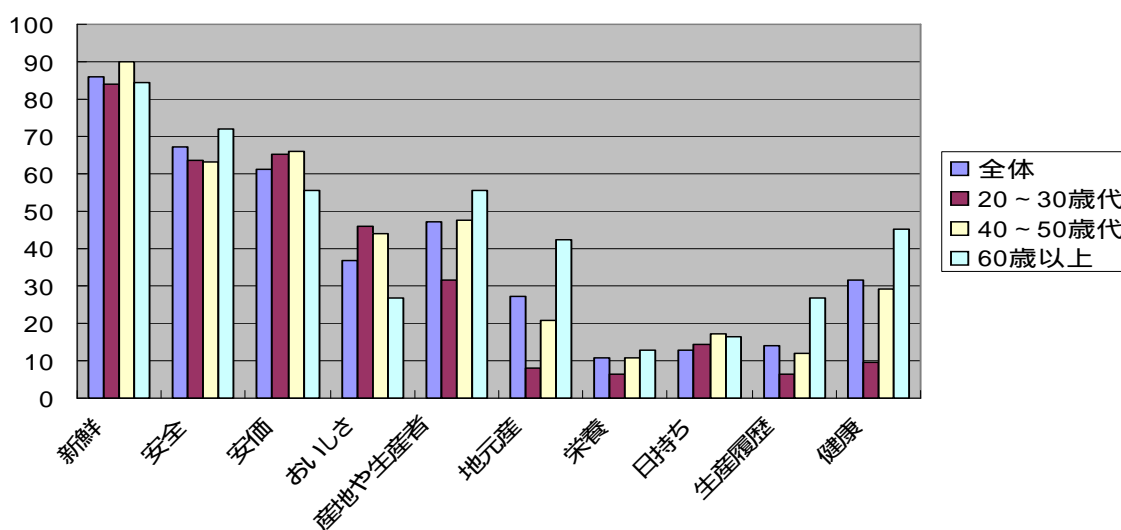
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
新鮮であること	80.0%	91.7%	92.4%	92.8%	90.3%	86.1%
安全であること	76.9%	76.0%	79.0%	74.9%	82.6%	75.2%
値段が安いこと	75.4%	76.0%	69.5%	60.5%	60.5%	51.8%
おいしさ	46.2%	56.2%	43.8%	37.7%	36.9%	35.8%
産地や生産者の確かさ	30.8%	44.6%	52.4%	50.3%	60.5%	54.0%
地元産	16.9%	26.4%	20.0%	38.3%	40.0%	59.9%
栄養が豊富であること	16.9%	19.0%	20.0%	16.2%	23.6%	31.4%
品質が日持ちすること	21.5%	17.4%	14.3%	13.2%	13.8%	24.8%
生産履歴がはっきりしている	7.7%	14.0%	13.3%	18.0%	30.8%	25.5%
健康によい	20.0%	33.9%	29.5%	39.5%	52.3%	54.7%

次に食材を選ぶ時に注意をしていることについて尋ねたところ、どの年代も共通して、「新鮮であること」に一番注意をしている人が多いことがわかる。また、「安全であること」もどの年代も共通して注意をしている人が多い。

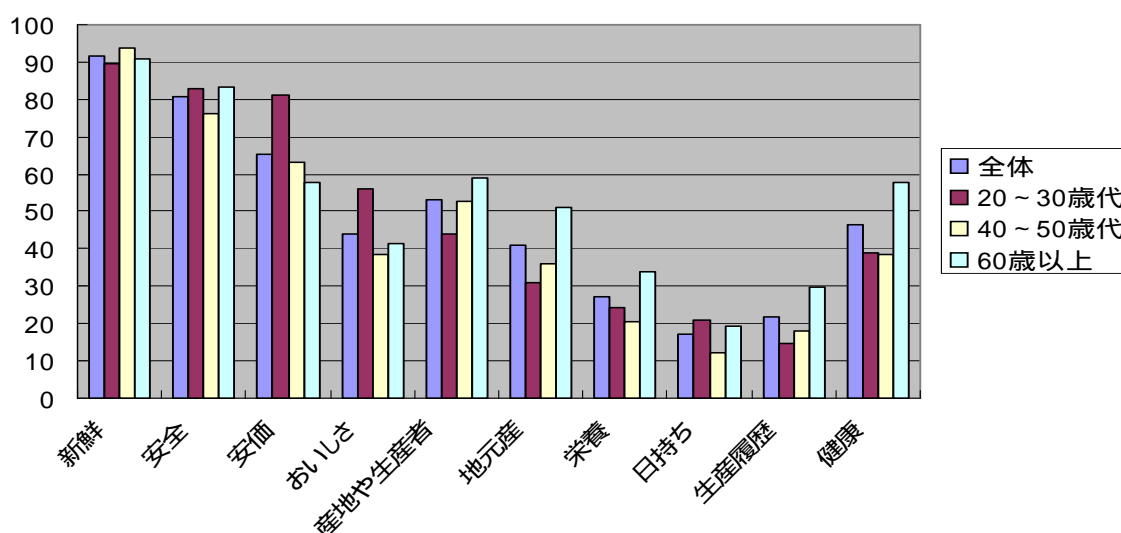
「値段が安いこと」や「おいしさ」は年代が上がるにつれて注意をしている人の割合が減ってきており、逆に「産地や生産者が確かであること」、「地元産であること」、「栄養が豊富であること」、「生産履歴がはっきりしていること」、「健康によいこと」は年代が上がるにつれて割合が高くなっていることがわかる。特に、「地元産であること」は20歳代が16.9%だったのに対して、70歳以上は59.9%が注意をしていると回答しており、約3.5倍に、「生産履歴がはっきりしていること」は20歳代の7.7%に対して60歳代が30.8%と約4倍にそれぞれ増加している。

全体的に年代が高くなるにつれて食材を選ぶ時に注意をしている項目が多くなってきている。

注意すること(男性)



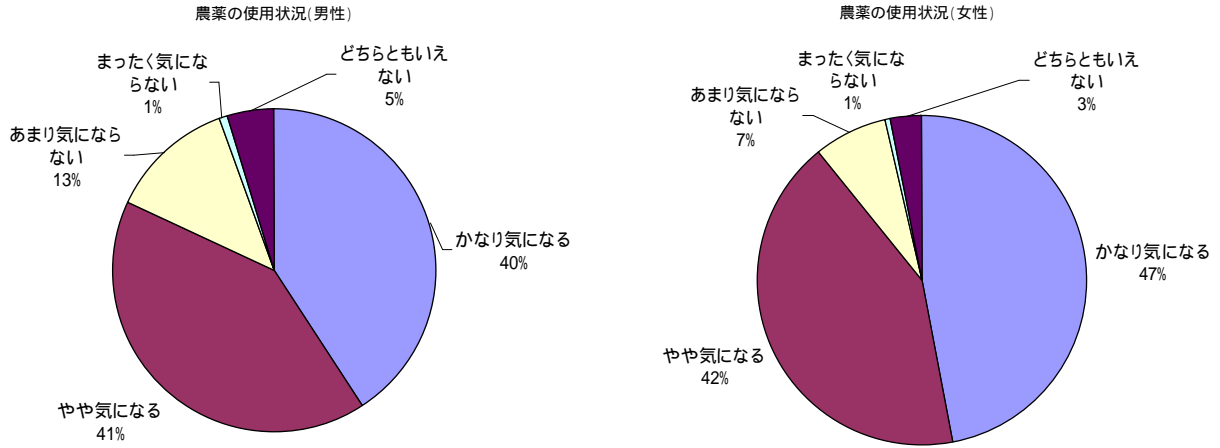
注意すること(女性)



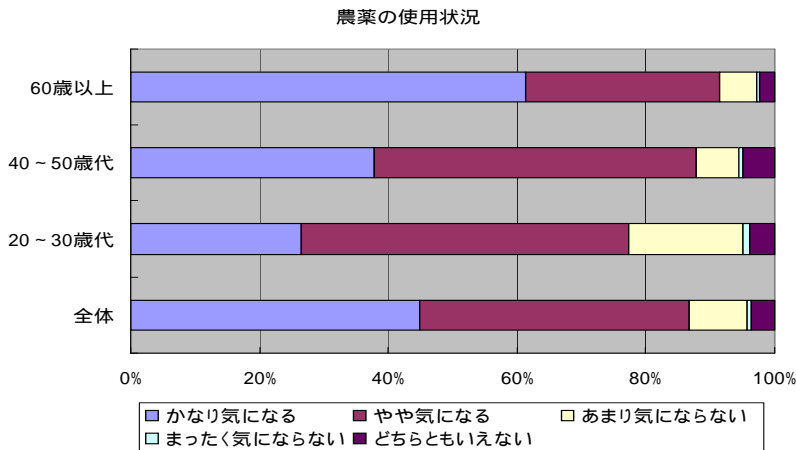
また、同じ質問を男女別にみると、男性よりも女性のほうが食材を選ぶときにいろいろ注意していることがわかる。特に「地元産であること」や「栄養が豊富であること」、「生産履歴がはっきりしていること」、「自分や家族の健康のためになること」については若い男性はほとんど気にかけていないことがわかる。

その他の意見では、中国産でないことや国産であることという意見があった。

4) 農薬の使用状況について

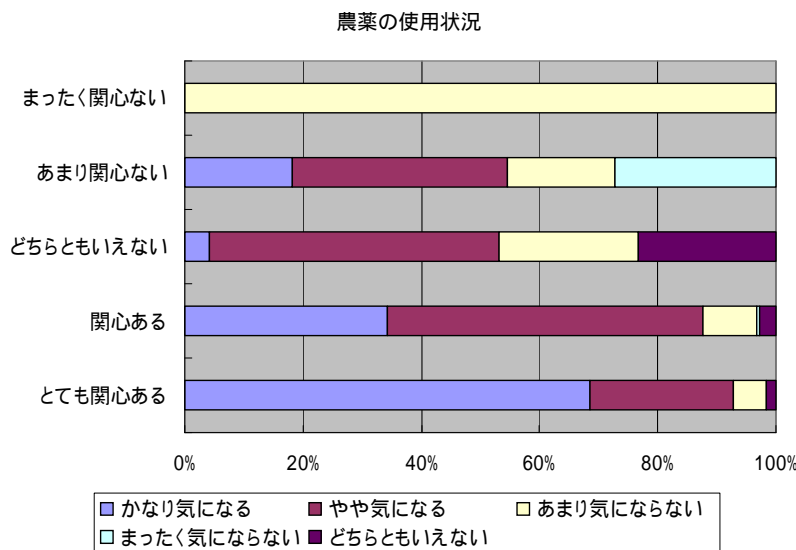


野菜の栽培過程における農薬の使用状況がどの程度気になるかと尋ねたところ、男性の約8割、女性の約9割が農薬の使用が「気になる」と回答している。



同じ質問を年代別にみると、年齢が高くなるにつれて農薬の使用状況が気になる率が高くなっている。

特に20～30歳代は他の世代と比較して農薬の使用が「あまり気にならない」と思っている率が高いことがわかる。

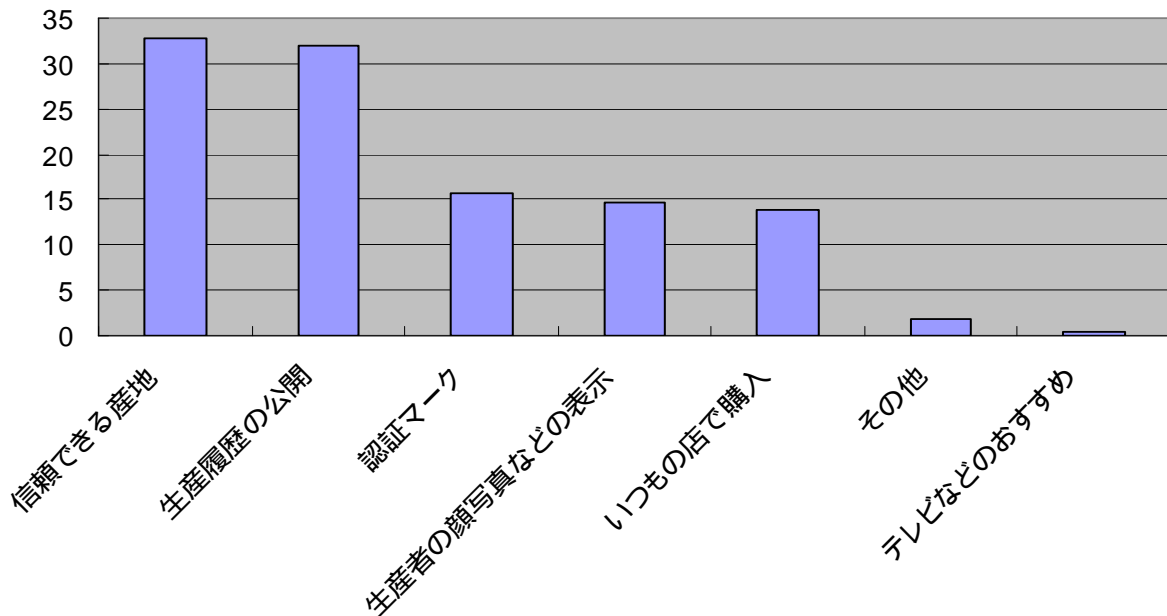


同じ質問を健康に関心があるかどうかでみると、健康に関心があると答えた人ほど農薬の使用状況が気になる人が多いことがわかる。

しかし、健康にとっても関心があっても農薬の使用があまり気にならないと回答した人が5.5%、逆に健康にあまり関心がないが農薬の使用がとても気になるという人が18%いた。

5) 食材を購入する際に重要な情報

必要な情報



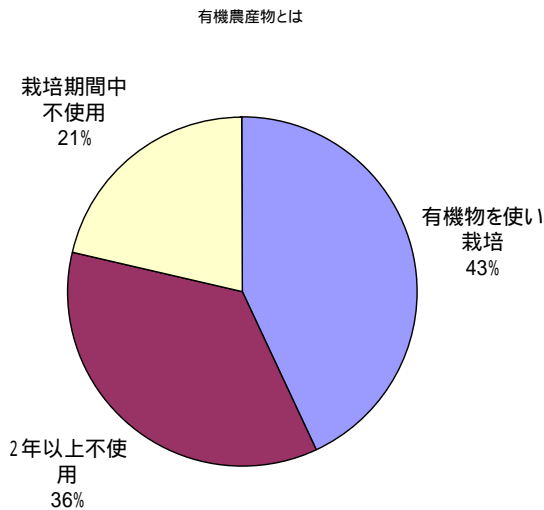
また、「安心して食材を購入するためには、こういった情報が重要であると思うか」と尋ねたところ、「信頼できる産地で栽培されていること」回答した人が最も多く32.7%、次いで「どのようにして栽培されたか、栽培履歴が公開されていること」が31.9%とほぼ等しくなっている。その後「第三者が認証した認証マークがついていること」15.6%、「誰が作ったか、生産者の顔写真や氏名などが表示されていること」14.6%、「いつも買っているお店で売っていること」13.8%と続いている。「テレビやお店の店員が勧めていること」は0.4%とほとんど重要視されていないことがわかる。

その他の意見としては、下記のものがあり、表示の信頼性が重要であるという意見が多く、嘘の情報が多いので何も信頼できないという意見も多かった。

(その他意見)

- ・情報が正確であること。
- ・表示の信頼性
- ・うその表示をしない
- ・国産であること
- ・地元産であること
- ・地産地消で適度に安く、収穫日が公開されていること。
- ・虫などがいないか。調理のしやすいもの
- ・確かめるのは大変なので、安全な商品しか置かないという店があればよい
- ・商売人はウソを言うので、商品の情報は信じない
- ・栽培履歴も顔写真も偽装されていると信用するものがないのが現状
- ・自分の目で見て買う
- ・無農薬であること
- ・自宅で栽培する
- ・何も信用できない

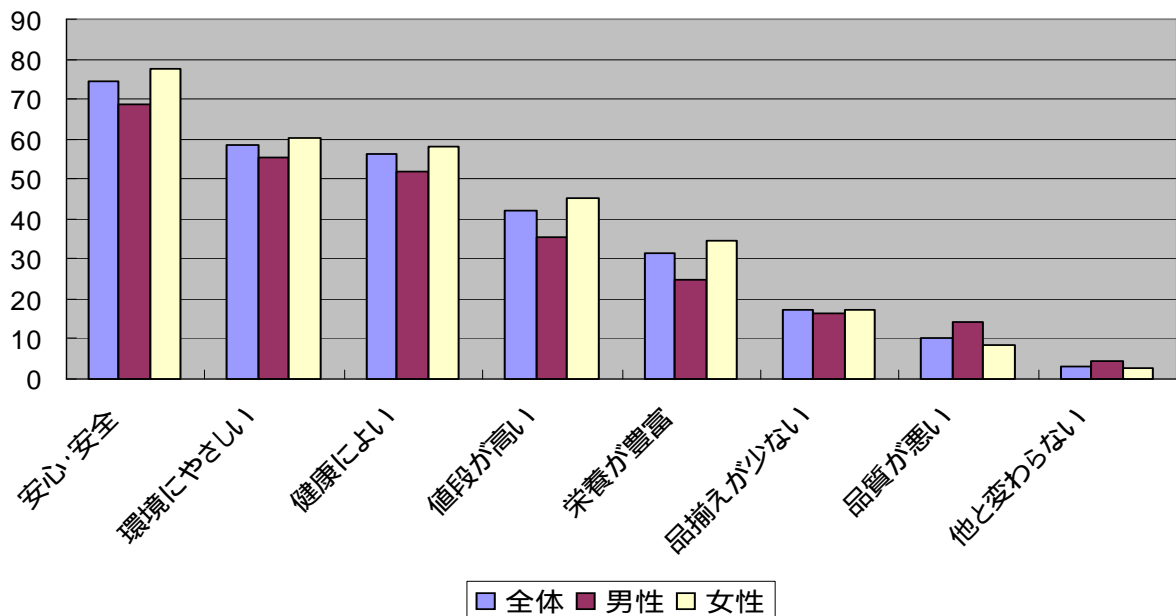
6)「有機農産物」の定義について



有機農産物はどのように栽培された農産物だと思いかと尋ねたところ、「堆肥などの有機物を使った土地で生産された農産物」と回答した人が最も多く43%であった。次いで「2年以上、化学合成農薬と化学肥料を使っていない土地で、化学物質を使用しないで生産された農産物」と答えた人が36%、「栽培期間中、農薬や化学肥料を使わないで生産された農産物」と答えた人が21%となり、20年11月に農協まつりで実施したアンケート調査結果とほぼ等しい割合となっている。

7)「有機農産物」のイメージについて

有機農産物のイメージ

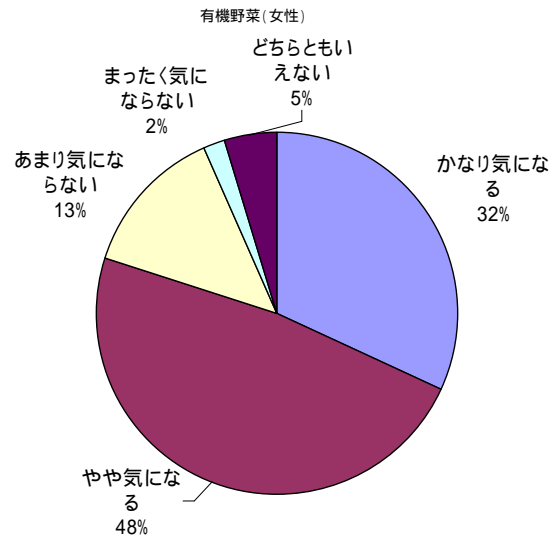
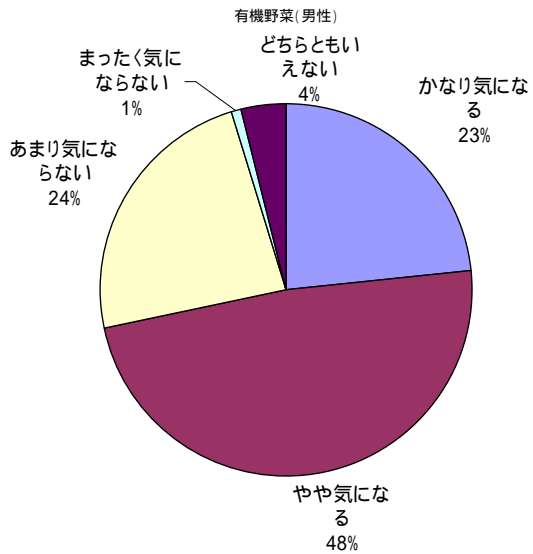


次に有機農産物に対してどのようなイメージを持っているか尋ねたところ、「農薬や化学肥料の残留の心配が内ので安全・安心」と回答した人が74.7%、「自然環境にやさしい」と回答した人が58.7%、「健康によい」と回答した人が56.2%、「値段が高い」が41.9%、「おいしくて栄養価が高い」が31.5%、「品揃えが限られている」が17.1%、「虫食いなどがあって品質が良くない」が10.3%、「一般の農産物と変わらない」が3.2%であった。

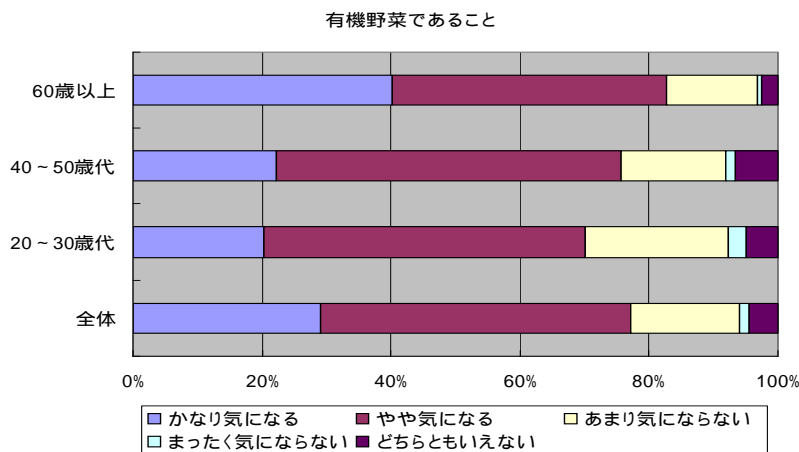
農協まつりで実施したアンケート調査結果では「値段が高い」回答した人が18.6%であったのに対して今回の調査では41.9%と約2倍高くなっている。

性別による違いはほとんど見られない。

8)「有機野菜」や「無農薬野菜」について

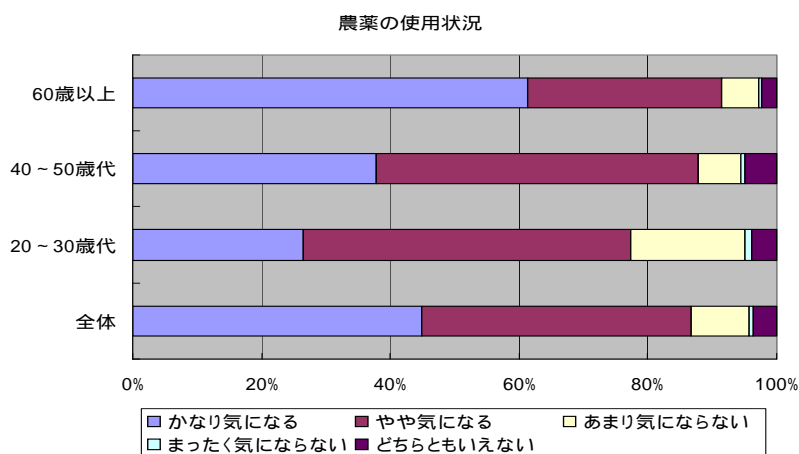


野菜を購入する際に、「有機野菜」や「無農薬野菜」であることがどれくらい気になるかという質問に対しては、男性の23%、女性の32%が「かなり気になる」と回答しており、男性より女性のほうが「有機野菜」や「無農薬野菜」が気になると答えた割合が10ポイントほど高くなっている。

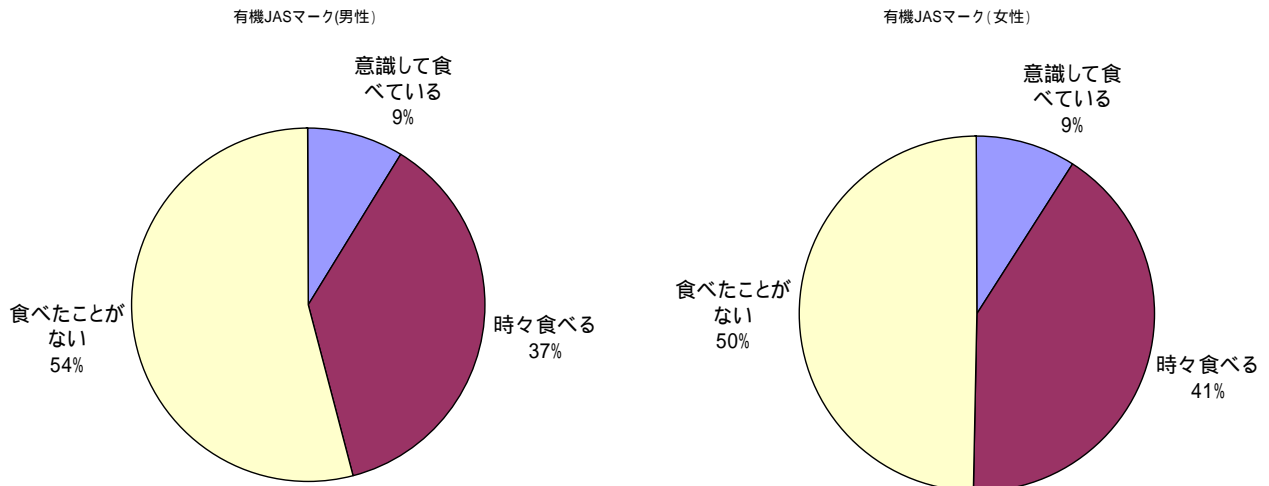


同じ質問を年代別にみると、やはり年齢が高くなるにつれて農薬の使用状況が気になる率が高くなっている。

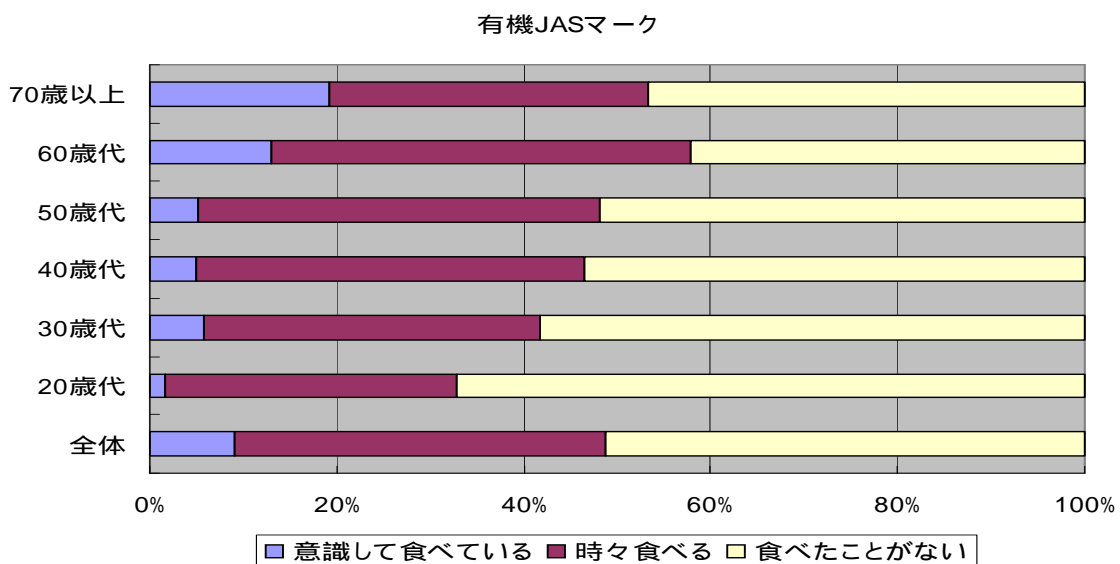
問6の野菜における農薬の使用状況と比べると、気になると回答した人が全ての世代において10%程度低くなっており、農薬の使用状況は気になるが、実際に野菜を購入する際には野菜がどのように栽培されているか、それほど気にかけていない人がいることがわかる。



9)「有機JASマーク」について

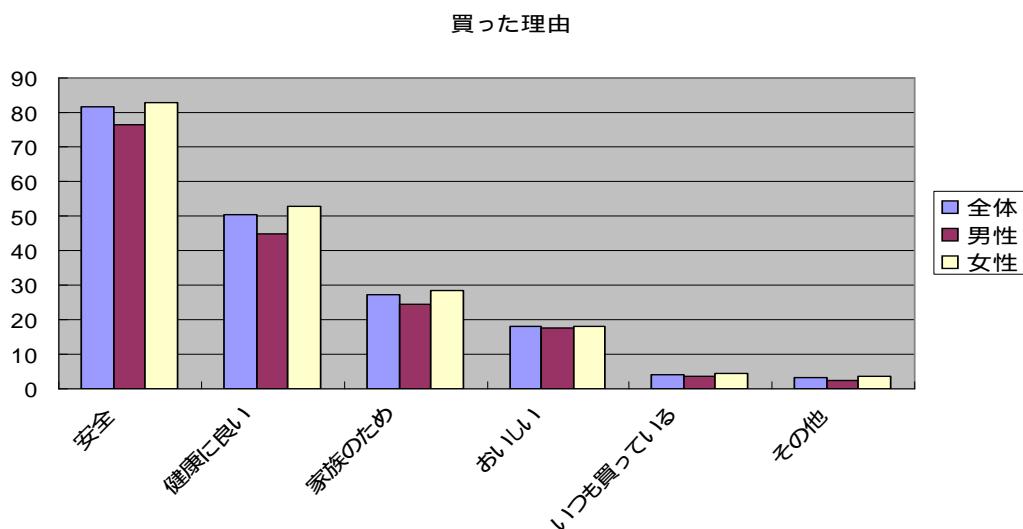


次に「有機 JAS マーク」がついた有機農産物を買って食べたことがあるかと尋ねたところ、約半数の人が食べたことがあると回答している。



年代別にみると、年齢が高くなるにつれて食べたことがある割合が高くなっている。

10) 有機農産物を買って食べた理由について



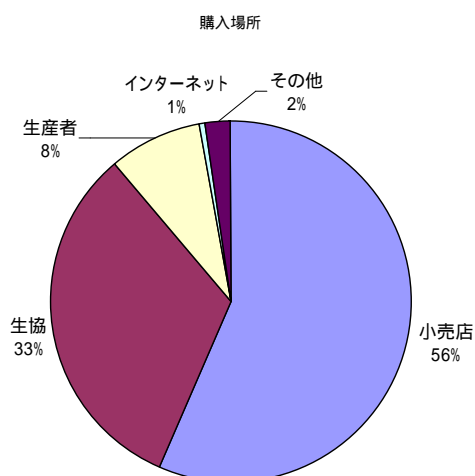
問11で有機農産物を買って食べたことがあると回答した人に、その理由を尋ねたところ、「安全だから」と回答した人が81.6%と大半であった。次いで「健康にいいから」と回答した人が50.3%、「家族のためだから」と回答した人が27.2%となっている。「おいしいから」と回答した人は17.9%であった。

有機農産物を購入する人は、「安全・安心で健康によい」から購入していることがわかり、これは有機農産物に対するイメージとほぼ等しくなっている。

その他の意見には次のようなものがあった。

- ・気持ち安心だから
- ・友人に勧められたから
- ・母が買っていた
- ・自分で作っている
- ・残留農薬など、テレビの影響で気になるから
- ・選んだ物がたまたま有機農産物だったから
- ・何の表示もないものよりはマシだから
- ・特に意識していない

11) 有機農産物を購入する場所について

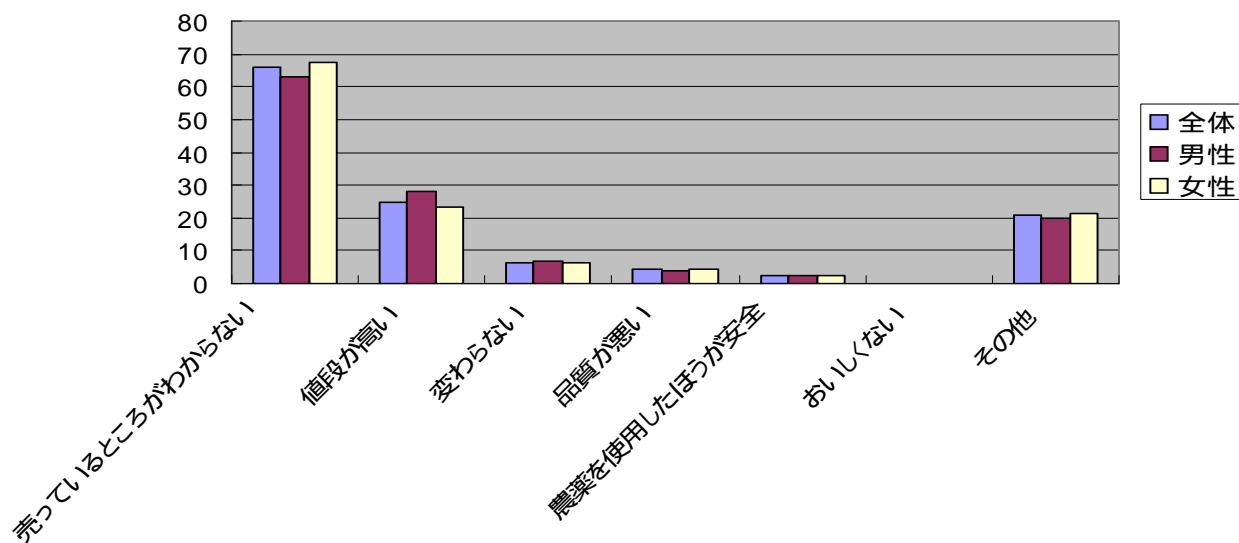


また、有機農産物を買って食べたことがある人に、有機農産物を主に購入する場所を尋ねたところ、「デパートやスーパーなどの小売店から購入する」と回答した人が最も多く56%、次いで「生協から購入する」が33%、「生産者から直接購入する」が8%、「インターネットで購入する」は1%であった。

その他には、「直売所で購入する」、「農家の人からもらう」、「家族が作っている」という意見があった。

12) 有機農産物を買って食べたことがない理由について

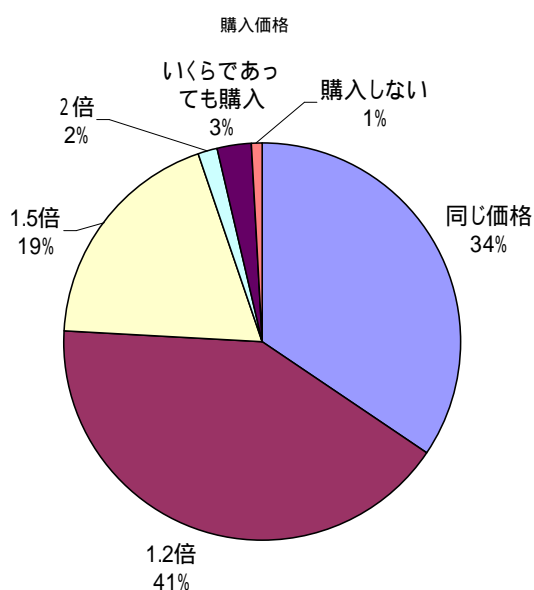
購入しない理由



問11で有機農産物を買って食べたことがないと回答した人に、その理由を尋ねたところ、「売っているところがないから」と回答した人が最も多く66%であった。次いで「値段が高いから」と回答した人が24.9%、「一般の農産物と変わらないから」が6.5%、「虫食いなどがあって品質が悪い」が4.2%、「適切に農薬を使用して栽培した農産物の方が安全だから」が2.4%となっている。「おいしくないから」と回答した人はいなかった。

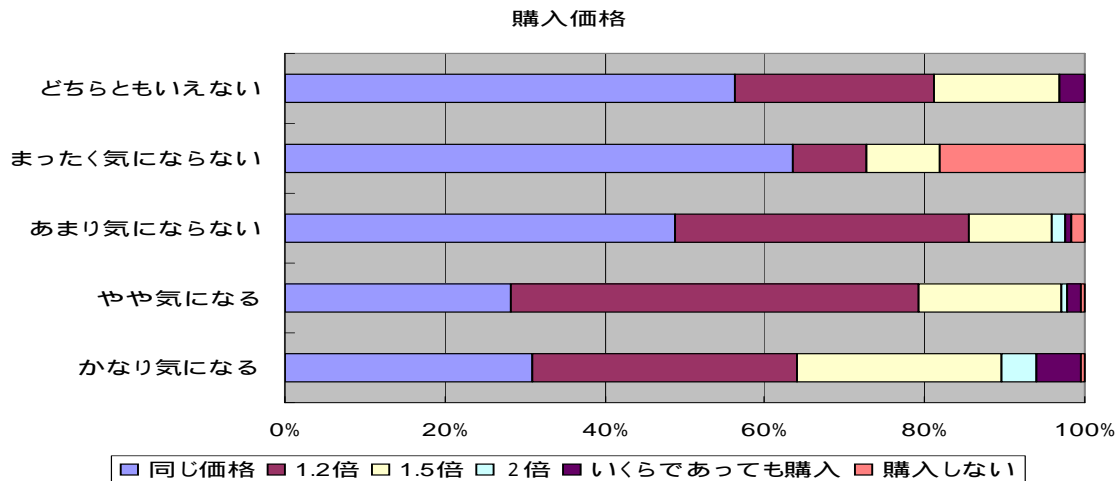
その他の意見では、「野菜を購入することが少ない」が28名、「表示など意識していないのでわからない」が26名、「有機 JAS マークがあることを知らなかった」が11名、「有機 JAS マークを見たことがない」「売っていない」が10名、「全て嘘なので一切信用しない」が2名、「有機にこだわっていない」、「安いものを選んでいる」、「新鮮さで選ぶ」があった。

13) 有機農産物を購入する価格



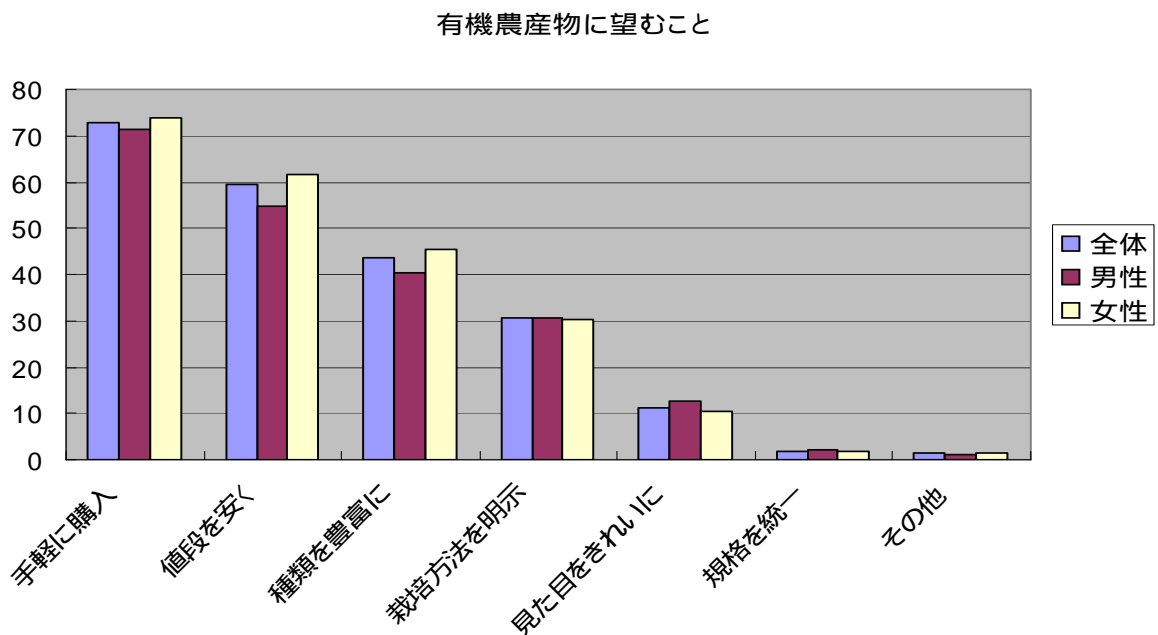
次に、有機農産物と一般の農産物が選べる時、有機農産物の価格がいくらくらいまでなら購入しようと思うか尋ねたところ、「一般農産物の1.2倍の価格まで」が41%、次いで「一般の農産物と同じ価格」が34%、「一般の農産物の1.5倍まで」が19%、「いくらであっても購入する」が3%、「一般の農産物の2倍まで」が2%、「いくらであっても購入しない」が1%だった。

一般の農産物の1.2倍程度までの価格であれば75%の人が有機農産物を購入してみたいと思っていることがわかる。



同じ質問を、有機野菜であることが気にしているかどうかでみたところ、有機農産物や無農薬野菜であることが気になる人ほど有機農産物の購入にお金をかけてもよいと考えていることがわかる。また、有機野菜であることが気にならない人でも一般の農産物の1.2倍から1.5倍までの価格で購入してもよいと思っている人が20%～40%程度いることがわかる。

14) 有機農産物を購入する際に望むこと



また、有機農産物を購入する際に望むことを尋ねたところ、「いつでも、どこでも手軽に購入できるようにしてほしい」と回答した人が72.9と最も多く、次いで「値段を安くしてほしい」が59.4%、「品揃えや種類を豊富にしてほしい」が43.7%、「どのように栽培されたか、栽培方法を明示してほしい」が30.5%、「虫食いなどをなくして、見た目がきれいな野菜にしてほしい」が11.1%、「大きさや規格をそろえてほしい」が1.9%となった。

見た目や規格はそれほど重要視されていないことがわかる。また、「見た目」や「規格」は女性よりも男性のほうが気にしている割合が高い。

15) 地元産の有機農産物について

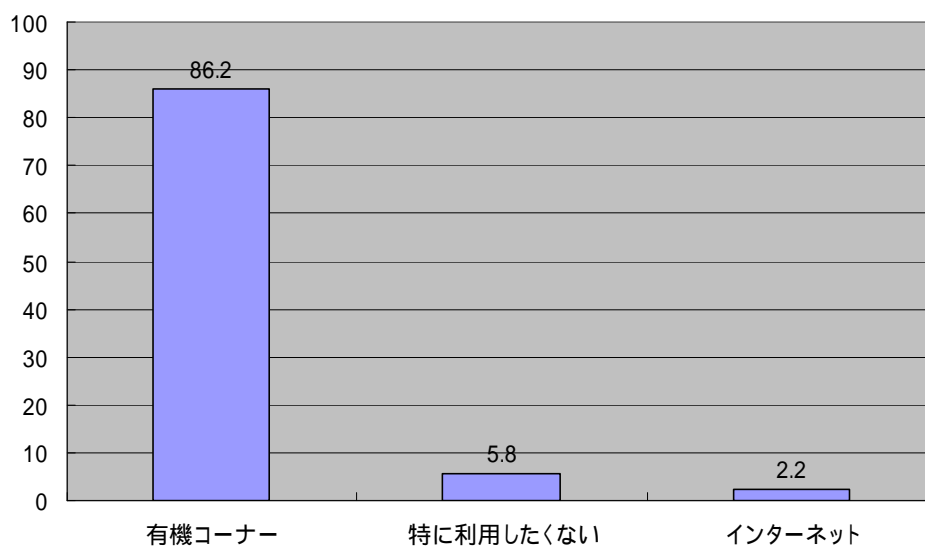
次に、「少くとも、有機で生産された地元産の食品を求めたいと思うような食品は何か」ということを尋ねたところ、次のような結果になった。

これをみると、加工食品よりも生鮮食品が要望が高く、特に農薬が直接かかる部分を食べることになる葉菜類や果菜類が上位を占めていることがわかる。

順位	食 品	件数
1	ホウレンソウやキャベツなどの葉菜類	547
2	キュウリやトマトなどの果菜類	511
3	お米	428
4	ジャガイモやダイコンなどの根菜類	362
5	有機的に飼育された牛・豚・鶏肉	357
6	鶏卵	354
7	有機豆腐	255
8	みかんや梨などの果物	236
9	有機味噌	224
10	しいたけなどのキノコ類	213
11	有機醤油	203
12	豆類	180
13	有機小麦で作ったパン	177
14	有機納豆	138
15	有機ジュース	124
16	有機菓子	100
17	その他	12

16) 有機食品の購入について

有機農産物の購入



最後に、「地元産の有機食品を手軽に購入できる場があれば利用してみたいと思うか」と尋ねたところ、全体の86.2%の人が「スーパーや直売所で『有機食品コーナー』があれば利用したい」と回答した。一方、「インターネットで注文できるような仕組みがあれば利用したい」は2.2%であった。

このことから、スーパーなどで買い物のついでに気軽に有機農産物が手に入るのであれば、大部分の人が購入してみたいと思っていることがわかる。

17) 食べ物の安全性の確保、表示の信頼性などについて言いたいこと

「食べものの安全性の確保や、消費者の安心の確立、表示の信頼性の向上に関して、行政や農業関係機関等に言いたいことや要望」、「その他、食べものや有機農業の推進についての意見や感想」について訪ねたところ、下記の多くの意見が寄せられた。

行政や農業関係機関等に言いたいことや要望

- ・良い方向で努力していることは大変喜ばしいことだが、良心的な産物であれば、有機であろうとなかろうと、あまり気にならない。食料自給率を考えると、安定して供給されることが一番。
- ・離島の小さな村では商店が1軒あるのみ。遠くへ行くには船か、車になりその1軒に頼らざるを得ない。数量等にも制約があるので、いろいろ選ぶことはできない。関係団体の長のご英断を待つばかり。
- ・利益に走りすぎず、正直に真心を込めて、有機農業の理解（コミュニケーション）を周りと深めていけばいいのでは。どこのスーパー、マーケットでも販売していけるようにしてほしい。
- ・有機野菜、有機産物がいいのか？有機も無機に土の中ではなるのでは？
- ・有機野菜、無農薬野菜といっても、自分で作っているので難しいことはよくわかりますが、どの位の農薬を使っているか、どのような有機肥料を使用しているのか、わかったらうれしいです。
- ・有機農産物を作っている生産者はまだ少なく、生産者が増え消費者がたくさん消費するようになれば、価格も安くなるのではと期待している
- ・有機農産物をもっと広め、国民が安心して食生活ができるようにすれば病気にならない元気な体になると思う。行政や農業者団体が丸となって生産者に指導、広めてもらいたい。小学生から教育の中で、食の安全性や野菜の育て方を教えてもらいたい
- ・有機農産物や無農薬野菜をアピールし、消費者に宣伝する余り、他の野菜が多量の農薬や化学肥料を使用していると思われる節がある。区別することは大事だが、マーク付きの野菜でなくても心配ないことも皆さんに知ってもらってください。
- ・有機農産物や無農薬と書いて売られている野菜を見ると、けっこうきれい。家で作ると虫だらけで店に並んでいるような野菜は出来ない。虫だらけの野菜が「無農薬」を表示されて売られるようになればいい。
- ・有機農産物は作るのに手間がかかる。有機農業者が安心して働けるように行政で支援策を行って欲しい。
- ・有機農産物が理想だが、値段があまり高いと利用できない。もっと安全な農薬の開発も考えて欲しい。
- ・有機農産物が安く手に入るように、行政の方でもコスト削減や補助など積極的に取り組んでほしい。
- ・有機農産物、お肉など行政の方に気をつけるようにしてほしい。
- ・有機農業は自分でやってみないとわからない大変さがある。
- ・有機食品を少々高くても体のためだから買いたいの、それが本当なのかどうか買うときにいつも思う。絶対確実にそうだとすることがわかるようにしてほしい
- ・有機食品の良い点をもっと宣伝したほうがよい。
- ・有機栽培や、農薬、化学肥料などの使用過程を正しく明記して欲しい。
- ・有機栽培であろうがなかろうが我々が作っているものは安全安心の農作物である。
- ・輸入物に頼らず、国産で安全・安心なものを食べたい
- ・輸入に頼らず、耕作放棄地を活用し、安全な食べ物がもっと栽培されればよい。子どもたちに食べさせたい。
- ・無農薬や有機野菜の品揃えを増やして欲しい。遅い時間に行くとなないので、一般のものを買って帰る。
- ・味や製法について情報公開を希望すれば早急に答えてほしい。
- ・毎日口にするものなので、国内産、特に地元産を並べて欲しい。新鮮で安心なので。消費・賞味期限よりも生産日を明示して欲しい。そのためにも農地を確保して守って欲しい。
- ・毎日、農業をされている農家の方に感謝している。がんばってください。
- ・本当に有機農産物であることや、生産者を確認することができるようにしてほしい
- ・本当に信用して購入できるように望む
- ・本当に安全な食べものが手に入りやすいように表示をきちんとして欲しい。安全だと安心できる物が少ないので、生産者が安全な物を作りやすいように行政が補助をして欲しい。
- ・本当に安全かどうかしっかりチェックして欲しい
- ・普段何気なく口にしてしている食べ物の、産地や特色、情報など食卓に届くまでの過程を知ると自然への興味もわいてくると思うので、信頼性の確保をお願いしたい
- ・不揃いでも、虫食いでいい。農薬を使ってほしくない。
- ・不正表示を根絶して欲しい
- ・品質が安定されている品といえども、それを認定する機関等の組織の中の人たちがきちんと仕事をしていないので、安心とか品質の向上とかわめいても意見としては通じないので、ほとんど信用できないと思っている。
- ・表示違反があったときに、もっと厳しい刑事罰が与えられるように法律改正をして欲しい
- ・表示の付け替えなどをしないで欲しい

- ・表示の信頼性を確信できない近況なので、地元産で農業者の名前が表示されているものを購入するようにしている。地産地消はすごくいいこと。今は、精肉の安心性が気になる。
- ・表示の信頼性が無くなってきているので、安全性が確保されているのなら、安い外国産を買ったほうが騙された感がない。できるだけ地産地消に協力したい
- ・表示の信頼が一番。安全の表示を確実に、嘘がないようにして欲しい。そうすれば少し位値段が高くて買おうと思う。
- ・表示の偽装がない工夫をしてほしい
- ・表示が正確なものであって欲しい
- ・表示が正しくないといけない。一時たくさん売れても、信頼が失われると誰も相手にしてくれない。信用は大切
- ・表示・安全性の確保は今日の社会問題になっているように、信頼性の確保には限界がある。違反時の罰を重くするなど、きびしく追求すべき。そうしないと今後も繰り返になる。
- ・農薬使用基準の徹底を図る。補助事業に面積要件があるので、零細農業者のことも考えたきめ細やかな対策をお願いしたい。鳥獣害の被害もひどいので行政で対策を考え補助事業を実施して欲しい
- ・農薬をあまり使用しない方がよい。
- ・農薬の使用状況を明確にして欲しい。収穫直前の農薬使用はやめて欲しい。安全性について信頼できるシステムの構築を望む
- ・農薬の検査はきちんとしているのか。有機野菜などのラベルが信用できない。農家も家で食べるものは消毒しないと聞く。
- ・農薬の規制をすればよい
- ・農薬・化学肥料の使用を最小限にするよう指導する
- ・農地を持っていても作れない人は、国や県、地域に貸して、担い手を募集して作ってもらおう。農地を遊ばせないように、竹だけが増えないようにして欲しい。規制だけに縛られず、その時代に合うように働きかけて欲しい。
- ・農業予算は、土木ではなく農地に使うべき。農協は協同組合の原則を忘れてはいけない。機関の収支ではなく農家の収支を気にするべき。
- ・農業者自身が食べる人の身になって、自分なら喜んで食べると思う物、自信の持てるものを作ってもらいたい。
- ・農業関係機関自体が形や大きさにこだわって、農家から出荷させないようにしているため、農薬などを使用して規格にあわせるような生産方法になっているのでは。
- ・農業をもっと大切にしないと将来がない。農業で食べていけるようなヨーロッパの様な国に少しずつして欲しい。地元の物を食べるようにしている。友人からもらう無農薬野菜は本当にありがたい。
- ・農業への公的支援が必要な時期であり、将来の形を示して欲しい
- ・農業は大変だと思うが、なるべく安いものを買って食べたいので大量生産して、多く作られた物は捨てずに市場に出荷してもらいたい
- ・農協や農家が誠実に物を作ることは絶対にない。一切信用していない。買う以上は自分の責任で、文句は言わない。この世に信用できる作物はゼロ。
- ・農協の「消毒をしる、化学肥料を買え、傷のないきれいな物は高く買ってやる」という体制を行政が指導すべき。
- ・農協＝農薬。使用しすぎ。
- ・農家の方のご苦労に感謝している。自分で家庭菜園をやってみて、しみじみと苦労がわかった。これまでの農業技術や知恵を素人にも教えてくれる機会があればよい。
- ・農家でなくても農産物が売れるようにして欲しい
- ・農家からお米を買っている。農薬を最小限にするようJAから指導して欲しい
- ・認証している農産物が本当かどうか不安なところがある。地元産であればまだ信用できると思うのでより一層地元をアピールするべきだと思う。
- ・入手しやすく、値段が変わらないようになり、生産者が示されたりしてスーパーで購入できるようになるとよい。
- ・独立した第三者が承認するシステム作り、定期的に残留農薬の検査・地産偽装検査・適正違反すれば罰則強化
- ・店頭で、有機で生産されたものと大きく表示して欲しい
- ・鳥生れんこんや里いもなど、傷や腐っている部分に土を塗って見えないようにしていることがある。次から買おうと思わなくなる。パックの上に大きいものを選んでならべ、下に小さいものが入っているのも同じ。
- ・虫食いがひどかったり、虫がついていたりすると買うのをやめてしまう。有機野菜も見た目をよくする努力が必要だと思う。そういうことも食欲につながる。
- ・中国産食品の農薬、メタミドホス、メラミン等の問題、国内食品メーカーの数々の偽装や不正、昨今の事件をみていると食について100%信頼できる情報はない。ただ、消費者も賞味期限などを必要以上に気にしすぎている気はする。
- ・中国産の農薬検査を厳しくすること
- ・地産地消をもっと積極的に実施すべき(日本の自給率も向上する)。消費者も、もっと勉強しないとけない。
- ・地産地消にもっと取り組んで欲しい
- ・地産地消で安く

- ・地元産のみ店頭に並べてほしい
- ・地元の野菜は地元で消費できるような流通であってほしい（特にJA）
- ・地域別に生産者の講習会を開く
- ・地域の発展にもつながると思うので、地域も有機の野菜がまかなえると良いと思う。
- ・第三者の認証も信用することが難しくなっていて、何を信用して食品を買って良いかわからない。生産者の顔写真や氏名も偽装かもしれないと思うと安心、信頼できない。どんなものも安心して食卓に出せる世の中になって欲しいと思う。
- ・大型店に集中し、年を取ると買い物が困難になる。有機農産物を扱う店がいろいろなところたくさんあればいい。
- ・多くを輸入食材に依存せざるを得ない状況で、一部の食材について地域で取り組みをしてもあまり意味があるとは思えない。まず、有害物質の含有率等の検証に重点を置き、安全性を確保することが問われるのではないかな。
- ・全ての食べものを有機生産するのは簡単なことではないのでは。まず、行政、農業者団体、農業関係機関だけでなく生産者、流通業者、消費者の意識改革が必要では。
- ・昔からの市場流通（セリ）ばかりでなく、農家自体が生産、流通、販売までを勉強し市場まかせの価格から脱却する方法を考えた方がよいのでは。
- ・生産者名や写真つきの商品は安心してしまう。消費者は誰でも安全で、おいしく、その上安いものなら購入したいのではないかな。安心して購入できる商品には多少価格が高くなって目をつむるのでは。
- ・生産者より、流通途中の業者への信頼を行政として確立して欲しい。形だけの検査だったり、業者とつながっていたりとしか思えないところがあるように思う。
- ・生産者の農薬被害をなくしたり、農薬や化学肥料の使用を減らしていくことをまず、JAが取り組む必要がある。かんきつ類などJAが生産者に一般の農産物とは違う扱いを始めないと普及しない。現状では、JAの組合員は高齢化・減少するのみ。JAが本気でと利組む必要がある。
- ・生産者に生の鶏糞や牛糞を使用しないようにしてほしい。
- ・生産者が自分の子どもや孫に食べさせたいと思うような物を作って欲しい
- ・生産者が自分で食べるつもりで、姿形を立派なものにしないでよいので、安全な商品を提供して欲しい
- ・生協の宅配品のように、産地や農薬散布の状況が表示されていれば選択しやすい。JAで販売している商品は、他と比べて少し高いと感じるがなぜなのか知りたい。生産者と直結しているはずなのに。
- ・正直な生産者であってほしい。
- ・正確な生産地、生産者の氏名表示は食品の安全安心につながる。価値ある農産物を出荷してほしい。
- ・人が人を裏切らない。食べ物は命のもととなるものなので、あれこれ画策せず、すべての人が信頼しあえば表示もなにもいらんと思います。
- ・身近なところに、田畑がたくさんある。野菜が口に入るまでには、消毒を繰り返し、殺菌剤をまき、お寒くなるかんじ。値段的に高くなるが、両者がわかりあえる機会のような場が無いと近づけないと思う。作る苦勞は年々大変のよう。
- ・身近なスーパーなどでももっと地元産の野菜や肉や魚を安く置いて欲しい。他県の食品より新鮮なうちに食卓にあがると思う。
- ・信頼できる食品であって欲しい
- ・信用できる生産者、販売所にして欲しい
- ・食物が輸送された距離がわかれば地産地消がもっと進み、エコイメージな食物になると思う。
- ・食品表示の信憑性の確保。生産者から消費者への経路の短縮
- ・食品偽装や輸入食品の安全性の問題で、食品の安全性に対して信頼できないのが残念。生産地や生産者が身近であることや、遠くの生産地であっても厳しいチェックなどを徹底してもらえるのであれば、価格が少し高くても購入したい
- ・食品を販売する以上、その事業主が責任がとれる」ようにするのは当然のことである。
- ・食品の偽装がないように、第三者に関しチェックをしてもらいたい。
- ・食品Gメンの活動を増やしてほしい
- ・食事は毎日とるものなので、安心してできる取組や制度を確率してほしい。
- ・食べ方、料理レシピなど記載があれば参考にして作ってみたい。
- ・食べ物の安全性への不信感は強い。安全な食べ物を安く安心して購入できるよう努力して欲しい。生産方法や流通経路がしっかりわかるよう仕組みを作り、偽装を許さない監視の目とモラルや倫理観をもって対応して欲しい。
- ・食べ物のニュースはよく目にする。価格などの問題もあるが、安全なのが一番だと思う。家族が安心して食べられる食品をお願いしたい。
- ・食の安全が大切。産地表示偽装などの罰が軽すぎるのでは。事故米の件がどうなるのか非常に関心がある。賞味期限の改ざんなど消費者には全くわからないことが多い
- ・情報は素早く公開して欲しい
- ・消費者は表示を信頼して購入するので、人としてのモラルを持って販売して欲しい。行政関係者ももっと徹底した調査を行い、不正を見抜ける高い資質を身につけて欲しい

- ・消費者は食品の情報を信用して購入しているから、偽装表示は絶対あってはならないことだと思う。
- ・消費者はお店で売っている野菜は安全・安心だと思っているので、表示の偽装がけないように取り締まってほしい。
- ・消費者のためになる生産をして欲しい。
- ・消費者と生産者、供給する側とのチェック機関の充実。モラルの向上と確立を。営利のみでなく供給者側は社会的責任感を高めて欲しい。このような点の公的な指導を期待する。
- ・少々高くても安心して食べられるのでいい。これからもずっと購入したいと思っているので、なるべく安く手に入るようにお願いしたい
- ・少しくらい虫が付いていたり、品質が一定でなくても安全性を選ぶようにPRすべき。生産者も胸をはって、自信を持って売って欲しい。有機栽培は手間とお金がかかることを消費者に知らせるべき。有機栽培と他の野菜の味や栄養価の比較一覧を作ってみては。
- ・商品すべてが信用できない世の中になっており、本当かどうかははっきりする制度が必要
- ・重大な結果を引き起こしてしまったときの補償や保証をきちんと行って欲しい。
- ・実際に作っている人は商品は買わないと聞く。それほど害があるのでしょうか。自分たちが食べるものは別に作っているとも聞かぬ。
- ・自分も少しの土地で野菜を作っているなのでその大変さがわかる。あまり儲かる職種ではないと思うが、もう少し数を増やして欲しい。
- ・自分の提供するもの、作ったものに自信を持って下さい。
- ・自分が食べて安心できるものを他人に食べてもらうということ。嘘をつかない。ごまかさぬ
- ・自宅や家庭菜園や貸農園で少しずつ作る楽しさを指導、パンフレット等を配して興味をもってもらおうようにする
- ・示されている表示が正しいかどうか不安がある。表示をチェックできる機関が必要。特に残留農薬については、抜き打ちで調べて欲しい。
- ・時期的に出荷できない規格外の作物等を農家、消費者双方のために、それらを生かす方法に向かうとよいと思う。
- ・スーパー等に生産者が気軽に出せるコーナーを充実する。
- ・紙パックの飲み物で腹痛をおこしたことがあり購入時に戸惑う
- ・私も菜園を作っていますが、無農薬で野菜はできません。よって減農薬でお願いします。
- ・私たち生産者は農薬の使用や肥料など気をつけているが、世間では偽装表示等騒がれている。もっとなんとかならないものか。
- ・子供たちの将来について考えてみると、我々大人みんなでよりいっそう「食の安全」について知ったり、できることから実践することが大切。日本全国で安全な食について学ぶ機会があるといいです。
- ・産直市をよく利用する。同じ県内産でもJAを通して出荷し、店頭と並んでいるものにはあまり魅力を感じない。表示等の工夫ができればよいと思う。
- ・産直市のように生産者が自分で出したもの以外は何人もの手を通っているので信用が難しい。報道で騒がれているように偽装が多く、店の名前では信用できない時代になっている。
- ・産直などでは、生産者の名前をきちんと明記して欲しい。またいつ頃収穫し、いつ頃までに食べたらいかが保存方法を教えてくれると良い
- ・産地名、生産者名を必ず入れてもらって、良いものがあればその表示を見て購入したい。
- ・産地偽装の問題がよく取り上げられているが、そのようなことを不安に感じながら食品を購入しなくてよいよう徹底して管理して欲しい
- ・産地偽装などの不正が発覚した場合の罰則をもっと厳しくしてほしい
- ・産地偽装だけはやめてほしい
- ・産地偽装が多い。チェック体制をもっと厳しくしてほしい
- ・昨年は食に関する様々な事件があり、本当に安心して食べれるものはあるのかと思うほどだった。食べることは毎日必要不可欠なので、信じて買って食べるしかない。罰則を厳しくするとか対策や検査をもっと厳しくして、再発のないようにして欲しい。
- ・最近、表示の偽装が多く行われているため、行政にはもっと厳しく検査を行ってほしい。定期的に生産者を訪問すれば、防げる問題もたくさんあるのでは。
- ・根菜類や葉菜類などの野菜には、農薬や化学肥料の表示をしてほしい。
- ・今後、「食」の問題は重要な課題となる。これまでのシステムの見直し、これからをいかにすべきか議論し、実行すべき。
- ・今はスーパーよりも産直に買いに行く人が増えているが、車がない人が、もっと身近に買えるようにスーパーの片隅や週に1度店頭などを用いて欲しい。農業者団体などには、市、県などの補助がもっとあればいろいろな野菜が安く手に入ると思う。
- ・今は、いろいろな商品の表示そのものに信用がなくなっている。第三者に認証があっても信頼性はない。今治市内だけでも「今治市のこのマークが付いているから安心」という100%信用できるものが欲しい
- ・国防上、最大の防御は食糧自給率の向上にある

- ・国産第一で国産のものがあれば買う。国産でも偽装していればだめ。農家を支援するのもよいが、たくさん売ればそれだけ安定するのは。
- ・高齢社会になると遠方まで買いに行けない。現在はアイコープの配送をしてもらっているが、時々野菜がしおれている。季節外れのは買わないようにしているが、地元のものでも苦い味がするときがある。
- ・行政は、高額な給料に見合う仕事をするべき。危険な食べ物が多すぎる。もっと体を動かして未然に防いで欲しい。税金を食いつぶすのはやめて
- ・行政が何をしているのかいまいちわからないので、もっとアピールした方が良いと思う
- ・口に入る物なので、常に行政がチェックして欲しい。
- ・効用や販売所等広報今治などに積極的に取り上げ、普及啓蒙を図る。
- ・誤った表示のない信頼のおけるJASマークであってほしい
- ・雇用不安定な時期、第一次産業の農業・漁業にこれからの若者が関心をもち活躍してほしい。
- ・見た目は気にしないので、安全であることを意識した野菜づくりをしてほしい。
- ・見た目がきれいな野菜は農薬をしているんだと思う。きれいな野菜を望む消費者がいることは確かだが、気にしない人もいると思うので、規格外の野菜などを別コーナーにして販売してはどうか。
- ・健康のためにも野菜中心の食事を心がけているので、なるべく安価で購入したい。
- ・形の悪さや虫食いは減・無農薬なら当然なのでかまわない。泥や土の汚れを洗うのが手間だと感じている。今まで安くて当たり前のように思われていた農産物だが、安心して食べられるよう生産するにはそれなりのコストがかかることを消費者に納得させる必要がある
- ・形が悪くてもいので農薬など最低限にして欲しい
- ・近年になって、食の安全性についていろいろ言われているが、それまではどうであったのか。消費者に喜んでもらえる作物は農薬や化学肥料を使わないで作るのは本当に難しい。見た目など、消費者に本当に理解してもらえるのか、各団体や行政で考えて欲しい
- ・近所の畑で、週2～3回農薬を散布している農家の人が店頭で減農薬とうたって出荷していたのはびっくり。表示もあてにならないし、信用できない。
- ・京都在住の娘の所に行っている間、カタログ販売の有機野菜に出会い、鮮度の良さに感激した。野菜そのものの風味がとても良かった。料金は高値だったけど、安心して食べることができて満足だった。年齢とともに大いに興味があつた。
- ・偽装問題が後をたたないので、有機農産物と表示しても信用しがたい
- ・偽装表示のないようにして欲しい
- ・偽装事件が多すぎて、根本的に信頼できない。チェック体制を整えて信用できる環境作りをして欲しい。・犯罪が多すぎて信用できない。組織なのできちんと監督して欲しい。
- ・偽装がないように、チェック、取締を厳重にしてもらいたい。購入する側としては、表示が全てで、それを信用して買うしかないと思う。
- ・規格がそろっていないので、格安で販売して欲しい。虫食いで無農薬の野菜のほうがいい。
- ・関係機関のチェック体制を確立して欲しい
- ・完全無農薬無科学肥料で作るには手間と時間がいくらあっても足りないと思う。適正な農薬科学肥料の使用をもっと行政関係団体がよくわかるように指導すべき生産者と消費者によくわかることが大切と考えます。
- ・学生なので、あまり高い物は買えない。産直市などがあれば、地元産も多く、安全で安心できる物がたくさんあると思う
- ・学校給食については地元産や有機農産物を農家から仕入れいているとの情報があるが、勤務先の「中央乳児保育所」でもそういった食材が使えないかと思っている。安全な食品を乳幼児に与えたい
- ・外国産は買わないようにしている。国産か県内産にして欲しい
- ・外国からの輸入を少なくし、地産地消、国内で採れた野菜を多くして欲しい。
- ・家庭菜園をしているので有機の大変さがよくわかる。だからこそ、表示の信頼性が不安。農薬は水洗いだけではほとんどとれないと聞く。1日も早く有機栽培にして欲しい。
- ・家でも野菜を少し作っていて、全く無農薬で栽培することはまず不可能だと思う。キャベツの裏についた卵の数に驚いた。なので、無農薬と表示してあっても信じていない。が、少しでも農薬の少ない野菜を食べたいとは思っている。
- ・加工品に対しても表示してほしい
- ・加工品でも産地を明記して欲しい。中国産は店頭で置かないで欲しい。スーパーでも直売所のように生産者表記をして欲しい。さいさいきて屋のような直売所をもっといろいろな地域へ増やして欲しい
- ・加工食品や半調理食品は産地表示がなく不安。せめて国産かどうかの表示があればいい。また、調味料を含め、全食材が国産の安心できる加工食品に、わかりやすいマークをつけるなどして、選びやすい工夫をして欲しい
- ・加工食品の中の食材がいかに安全性が高いものか、表示の信頼性を強化してほしい。
- ・加工食品の原材料の産地も表示してほしい。
- ・何の世界でも上に立つ人がしっかりしないと。と言いたいけど一般の人でも世の中のルールを守らなかつたり、守ることを無視する人が多い。世界中がバランスが取れていない。ルールやきまりに対してもっと厳しさが欲しい。

- ・嘘のない産地表示を望む。少々高くても中国産よりはいいと思いい地元や産地のしっかりした食材を選んでいるが、産地偽装のニュースを見るたびに何を信用すればよいのか悩む
- ・一般消費者は有機＝無農薬と思いでいる人が多い。その辺りで誤解がないような説明が必要なのではないか。
- ・一つの畑や田んぼでも無理。水、大気が汚れている
- ・以前のような性善説ではなく罰を重くして偽装をみはる必要がある。
- ・安全性の確保はできるのでしょうか。
- ・安全性が高いことを正直に公表する。
- ・安全性・安心の確立のため、栽培方法等表示の徹底をして、信頼性のある買い物ができるように願っている。
- ・安全とコストの両立は困難が予想されるが、最低限の安全の確保は生産者の責務であるため、行政の指導監督が及ぶよう制度の徹底を求む。その中で、有機農業というワンランク上の品が現実的な選択肢として具体化してくると思う。
- ・安全で、安く、どこにでも置いてある状態にして欲しい
- ・安心して食べられるように、条例の整備統一をして欲しい。表示の仕方が店によってバラバラなので、誰もがわかるように同じにして欲しい。
- ・安心・安全な野菜を料理人や一般の消費者が自分の目と舌で観察できる教室など開講して欲しい
- ・安心・安全な食品を口に入れたいと思う。努力がいると思うが、色々な商品がそうなるといい。
- ・安産第一 生命の問題として量も質も高めることに生産者団体の積極的な運動で成果をあげてほしい。
- ・リンゴやキウイなどラップで包んでいるものに、食べられないものが時々ある。信用して買っているのがっかりする。
- ・もっと行政が農家に対して援助をすれば、もっと安全な野菜が安価で購入できるようになるのでは。できればもっと利用したい。
- ・もっと一般の人々が農業に参画できるようになれば、農業が活性化し品質も向上し、消費者の利益になると思う。
- ・ボカシ作りに参加していますが、もっと大勢の方に参加してほしい。
- ・どのように作ったかの過程を表示させるべきだと思う
- ・どのように栽培されたか栽培過程における農薬の使用状況など信頼のできる表示をして欲しい
- ・とにかく、信頼できる食品提供としてほしい。それが行政の責任である。
- ・チェック体制がしっかりしていれば、安心して食べられるが、書類上だけだったり、建前だけの検査だから事故米や異物混入など食の安全が崩壊しているのでは。行政はしっかりとした体制を作る必要があると思う。
- ・それぞれが協力、共存していけるように、行政や農業者団体、農業関係機関の人たちに依存するのではなく自立していける人材を育てる何かをして欲しい。
- ・スーパーなどの直売所で早めに出向き購入している。「有機食品コーナー」があるのはよい。地元産のものを買うようにしている。肉も魚も、米は農家から直接購入している。
- ・スーパーなどの小売店へ月に1～2回は、表示、価格、鮮度などの調査をおこなって欲しい
- ・さいさいきてやや道の駅などの産直野菜は季節感を感じることができ良いと思います。農家で食べていける時代になり、よくわからない輸入野菜を食べなくてよいようになれば、食育の面でもいいのではないのでしょうか。
- ・これほど安全が重視されているのに、「有機」のPRはあまりされていないと感じる。
- ・きちんと実行していくことが大事。何をどうするのかを常に言っていないと面倒なことはやなくなる。
- ・お米をもっと作って欲しい。地元のお米は安心して食べれる。農地が多くあるのに、耕作していない土地がたくさん見られる。
- ・ウソを表示しないでほしい。消費者はそれを見て、信頼して購入するので。安全を第一にしてほしい。
- ・うそのない正直な表記をお願いしたい。
- ・いろいろ苦勞も多いと思うが、これからもがんばって欲しい。
- ・いのししの被害に困っている。安心して作物が作れるようお願いしたい。
- ・アレルギーの人のことも考えて欲しい
- ・EMを使って有機で野菜を作っている。耕作放棄地をよく目にするが、もったいないと思う。小中高校生に使ってもらって、作物を作ることを教えれば、食に対する考え方も違ってくるのでは。もっと肉体労働をさせたら良い。
- ・Aコープ生産者コーナーなど大いに利用できることは良いことだと思う。生産者に色々な所に出店できるようにするとよい。
- ・Aコープでは売っていない。販売者名は書かれているが、テレビなどで見るような掲示は見かけない。農協や生産者に協力しているのか
- ・「私は嘘をついたことはありません」を信用するしかないのは悲しい。生産、販売、関係者たちは仕事を手抜きせず、まじめにならないと恥ずかしい。賞味期限にこだわりすぎ。安いものを高く売るのは詐欺。選ぶのは消費者の責任になる。

その他ご意見やご感想

- ・有機野菜はとても良いものだと思うが、キャベツを切ると2つに切られた青虫が出てきたり、取っても取っても虫の糞があったり。みんな耐えられるのだろうか。
- ・有機野菜が（無農薬野菜）がいかにか体によいか、環境によいかということをもっとアピールし、消費者の意識を高めていくことが大切だとおもいます。
- ・有機野菜 無農薬野菜という認識をもっている。農業は大変な職業だと思います。消費者の信頼を裏切らないようお願いします。
- ・有機無農薬農産物は見た目はよくないが、健康食なのでよく食べるように消費者に伝えて欲しい。
- ・有機農法により栽培された柑橘では規格外とされ取り扱わないため、市場が限定され消費拡大を阻んでいる。
- ・有機農産物を購入して食べた方が健康に良いのはわかっているが、価格が高くなかなか手がでない。もう少し値段を安く購入できるようにして欲しい。化学肥料を使用しない有機農業は自然環境の維持にも役立っており、どんどん推進して欲しい
- ・有機農産物をもっと安くして欲しい
- ・有機農産物は手間がかかり大変なので割高になるのはわかっているのだが、毎日の食費を思うとついつい安いものになってしまい残念。有機とあってもどこまで安全なのか消費者にはわからないところがある。信用して買うだけ。
- ・有機農産物の販売種類の増加。価格を一般の農産物と同じにする。
- ・有機農産物の生産には手間がかかり、見かけが良くなって大量生産も出来にくいので価格が高くなると思う。それには、消費者の勉強と理解が必要。中国野菜や食品に不信感もたれる今、関係団体は有機農産物の生産、消費の推進について努力して欲しい
- ・有機農産物の栽培講習などをやって欲しい
- ・有機農産物など安全な食べ物だけをおつかう店が近所があれば利用したい。アンケートに有機農業についてや、取り組んでいる運動の内容なども同封してくれたら、もっと興味が持てると思う。有機農業について、体によさそう。くらの知識しかないの
- ・有機農産物がどんなものかあまりよくわかっていない。安全だ。程度。
- ・有機農産物が普及して、少しでもやすくなるよう農家に対して助成する制度をしてほしい。
- ・有機農業も大事ですが、その前に日本の食料自給率をもっと高くしておかないといざという時に困るのは・・・まず国産品を7～8割にする。有機とか無農薬とかはその先の話。農業で生活できる政策や環境づくりを急ぐ事。まず、現場を知り、現場の意見を聞いて欲しい。
- ・有機農業はいいと思うが、化学を専攻しているので、化学肥料が悪いと思いたくない。化学肥料にもよるし、使う人にもよるので、一方的に化学肥料が危ないと消費者にイメージを植えつけるのはよくないと思う
- ・有機農業の魅力をわかりやすく広めて欲しい。それと同時に食への信頼回復。信頼が回復しなければ有機農産物の魅力も半減してしまう。
- ・有機農業の推進は大賛成。私も進んで購入したいのでよろしくお願いします。
- ・有機農業の今治といわれるような市にして欲しい
- ・有機農業に取り組んでいる農家、農産物などを市の広報へ掲載して欲しい
- ・有機農業により多くの生産者、消費者が関心をもつようPRする必要がある。小中学校では学校の中で有機野菜を栽培し、子供が親を教育するようになれば良い。
- ・有機農業とは科学肥料、農薬を使用せずに作った農作物くらいの知識しかありません。知識のない方々に広報等を通じて大いにPRして下さい。
- ・有機農業がもっと一般的になって、品揃え、価格とも一般野菜と変わりが少なくなるように期待している。
- ・有機食品と名乗っても疑いのある事例が多いので、推進する人たちの一層の努力を期待する。
- ・有機栽培はとても手間がかかると聞く。利益率も低いかもしれないが、多くの農家が取り組むようになるとありがたい
- ・有機栽培とか無農薬栽培とか正確な定義がよくわからない。毎日口にするものだから、年齢的にも健康のことが気になりだしので、量よりも質に重点を置いて購入したい。
- ・有機とは何ですか。今ひとつ意味がわからない。
- ・有機という言葉はよく耳にするが実はわかっていない。虫食いで不揃いでもとにかく安全なものを作って欲しい。そのためには一般価格は合わないのでしょうね。
- ・有機だからと言って古くなくても店頭にあるのはどうかと思う。
- ・有機JASマークの内容をもっと広めて欲しい。その規格に合う商品にしかマークを付けていないと強く広報すれば良いと思う。マークの農産物には少し補助金を生産者に出すなどして、価格をできるだけ安くして欲しい。
- ・有機＝安全・安心、高価という考え方はどうかと思う。
- ・野菜菜園でも応用できることは知りたい。
- ・野菜や果実を入れている袋をビニールではなく、生ゴミから出るものでリサイクルしたものにしてみてはどうか？
- ・家族のスタイルが多様化しているので、少量でも買やすいスーパーが増えてほしい。食材を売るだけでなく、レシピを添えて、それに必要な食材をパッケージにして売ってみてはどうか。

- ・野菜は無農薬では絶対に作れない。減農薬でも3～5回くらい消毒をしていると農家の人に聞いた。
- ・野菜などは少し作っているのだから、作れない肉類や牛乳などの安全性を求む
- ・野菜だけでなく、その他の食品はもちろんあらゆる品物で、自然で安全なものの種類を増やし、いろいろなお店に少しずつ置いておくのではなく、安心・安全な専門店を作って欲しい。
- ・無農薬や有機はエコや体への安全から良いことはわかるし利用したいとも思うが、品が貧弱であったり虫食いがあつたり、見た目より金額が高いと買わない。買わなければ回転率が悪く新鮮さがなくなる。の繰り返しで。結局、本質がわかっていないのだと思う。
- ・無農薬や有機の食材を学校給食の全てで使用するように市が取り組む。市関連施設で有機農産物を増やすなど具体的な取り組みが必要。また、パンフレットなどにより、市民に具体的にわかる取り組みをする。市のイベントで有機食材を市民に食べさせたり販売したり、PRをする。
- ・毎日食べるものだから、消費者も気をつけることがあれば言って欲しい。
- ・毎日のものだから安い方が良い、毎日のものだから有機農産物が良い。
- ・本当に有機なのか厳しくチェックする必要があると思う。農協の営農担当者も30年くらい前は熱心に取り組んでくれたが、今は質問しても答えがすぐに返ってこないことが多い。職員には専門的な勉強をした人を置いて欲しいと思う。農業についてわからないことがあっても、どこに聞けばよいかわからないことがある。
- ・不景気なので食費も減らしてきているが、反面、健康のために食費だけは削れないという思いもある。医療費もかけられないし、これから大きくなる子どもたちのためにも健康的な食事を作りたい。安価な安心食材を提供していただき、今治市のみんなが健康で、この不景気を乗り越えられたらいい。
- ・不況 労働 贈、食費 減、調理機会の減
 - 1 保存のきく少量のカット素材としてスーパー等で販売
 - 2 外食チェーン等で期間限定で使ってもらおう

普通に消費する、している機会を増やすことが消費者にとっても理解が得やすいのではないかと
- ・販売所を増やして種類も多くなって欲しい。
- ・波方町森上で農業らしきことをしている。イノシシの被害がひどくて非常に困っている。何か対策をお願いしたい。
- ・農薬を使用せず、消費者が安心して購入できるようにして欲しい
- ・農薬を使わないで、食べて安心、安全な野菜をめざして、見た目、虫などでできが悪くても自分で作るしかない。
- ・農薬をあまり使用しない農作物を作って欲しい。健康はお金では買えない。
- ・農薬による弊害をもっと明らかに店頭などで見たり聞いたりする機会があればいいと思う。恐ろしさがわかれば多少価格が高くてもきれいな野菜でなくても、自然と有機栽培の農産物を買うと思う。
- ・農業事情もいろいろ難しいと思うが、有機農業の推進もより一層努力して欲しい
- ・農家が減っているのだから補助等を増やし、地元産の食品の確保をして欲しい。
- ・年金受給者なので、自給自足をモットーに暮らしている
- ・日本で作れるものはみんなで作るようにしたい。食は生きる基本。元気な国民は体を動かして物を作っていききたい。若者は体を動かさなすぎと思う。生きていて良かったと思えるように体を動かし、自分のため、人のために働いて欲しい。有機農業がその基本だと思う
- ・特に人の生活の基幹となる第一次産業をなおざりにするのは、すぐに変えないといけな。農業・漁業者は大変苦しい生活を強いられている。実際、私の親戚は農業・漁業者なのでその実態はよくわかる。今ネット等で若い方たちは手段があるが、年老いた生産者たちはその術が使えない。ずっと長い間それで耐えてきたので、もう年寄りだしということもあり、あきらめムードです。そう思わせないようにして欲しい。
- ・店頭での表示を信用できるようにして欲しい。
- ・虫食いや見た目より、価格が安いほうがいい。
- ・虫食いがあれば何となく安心する。
- ・虫喰いや大きさの不揃いはあたりまえなので、安価で提供して無駄にしないほしい。 価格調整や生産調整のために破棄することは残念です。
- ・中国産を仕入れないで欲しい。変わったものをおかなくても、普段ふつうに使える物を国産でまかなって欲しい
- ・地産地消のように有機野菜をもっとアピールして欲しい。学校給食に積極的に取り入れて欲しい。
- ・大変だと思うが、あまりマスコミにとらわれないようにがんばって欲しい。
- ・大いに推進することを望む。値段の問題や、虫食いや見た目悪さの問題もありますが、段々普及していくと思う
- ・大いに進めて欲しい
- ・台所のゴミを集めて堆肥にし、畑に入れている地方等をテレビで見る。手間がかかることだが、そうすればいいのと思う。
- ・体にいいのであれば購入したいと思う
- ・多くの場所で販売してほしい。
- ・即座に有機生産は困難だと思う。まず減農薬生産から順次、有機生産へと進むのがいいのでは。全ての農地で有機生産は困難では。

- ・戦後の食料がなかったころは、外の葉は家畜の餌になり、糞は畑や植木の肥料にあって無駄が無かった。野菜も虫くいが多かったが何の心配もなく食べられていた。70年前に戻れとはいわないが、安心して食事のできる日々であって欲しい
- ・専業農家が野菜（ブロッコリーやレタスなど）に消毒をかなり行っているのを見ると、地元産でも購入するのが怖い。
- ・絶対中国産は安くても買わない。遊休農地がたくさんあるのに、なぜ国内で生産しないのでしょうか。
- ・昔の八百屋のように自分で品物を吟味して買えるように袋セットではなく、1個売りにして吟味して購入できるようにできる範囲でできるようにしてほしい。
- ・生産名、農薬散布回数、消費期限、加工食品の添加物等には目が止まるが、まだ現状では有機農法食材であるか否かまではチェックしていない。「耳にしたことはあるが・・・」程度の知識である。
- ・生産者直産のAコープなどの販売方法は大変良いと思う。一層の充実を望む。
- ・生産者側もできる限り、減農薬、無農薬の農産物を作りやすい施策をとって欲しい
- ・生産者の顔が見えることはもちろんのこと、国内産でも聞くとところによると、消毒がすごい。綺麗な野菜は消毒のためものと聞く。認められている消毒薬でも保証はないのでは。
- ・人体に無害であることだけでも守ってほしい、
- ・人間は生まれ育った気候風土そのものを、体に取り入れるのが一番理にかなうと思うので、地産地消を体現するのが良いと常に思っている。よって、何らかの枠があるのならできる限りはずして、多く生産し、安価で出荷して欲しい。もっともっと意識・意欲を高めていって欲しい。アピールして欲しい。購入する側もよく学んで必ずそうした商品を買うように心がけていくので努力している姿がみたい。
- ・新聞、テレビなどで教育、PRする
- ・新鮮であれば買う。安いからといって、中国産は買わない
- ・新鮮であまり農薬を使ってない方がよい。
- ・食物自給率を上げるための企業の農業への参入を拡大し、若い人材を社会法で雇用する。進んだ農政への方向転換の時期が来ていると思う。JAばかりに農政が頼っているようだ。
- ・食品を購入する際に、安心・安全なものを第一に考えているが、一般の野菜と有機野菜を食べ比べたこともなく、有機野菜でないといけなかったことない。安く品揃えが豊富であれば、これからは購入したいと思う
- ・食品の包装に使われるパックやラップ、ビニール袋などがプラスチックごみのほとんど。スーパーも量り売りをしてほしい。持ち帰りもビニール袋ではなく新聞紙で十分だと思う
- ・食品の半額コーナーの場所をお客様にわかるようにしてほしい。
- ・食べ方や料理方法の研究会など
- ・食べて安全な食べ物を販売して欲しい
- ・食べて安全であるので、県内産の有機農産物をもっと増やして欲しい。安いにこしたことは無いが、生産者も生活があるので、良い物なら少し高くても買いたい。
- ・食に対しての不信感が多いからこそ、安全・安心でたくさんの方が有機野菜を口にできるように有機農業をどんどん増やしていって欲しい、
- ・消費者としては安全で安いものがありがたいが、農産物の正しい評価がされ、品質に見合った価格がつけられ、生産者にとっても魅力ややりがいのある有機農業であって欲しい。
- ・消費者が虫が付いた野菜を嫌わないように意識改革をする必要がある。それは学校の教育が一番。農家の人を学校に招き授業をしてもらうことも大事だと思う。
- ・消費者が食品に対して一番要求することは安全性だと思う。今の時期だからこそ有機農業を推進して欲しい。見た目の美しい野菜に残留する有害な薬品の恐ろしさを消費者に伝えて欲しい
- ・消費者が、生産者の畑から直接野菜を買えたらよいと思う。
- ・少しくらい虫が食べていても農薬は使わないで欲しい。
- ・出来ればいつでも安全なものが食べたい
- ・若い農業者がずっと続けていけるようなまちづくりをしてほしい
- ・写真入りの無農薬野菜は偽装の前例があり全く信用できなくなった。有機・無科学肥料等についても同じ。
- ・自由市場的なところが増えて、買い物に行っても楽しい。食は楽しくと思える場所。
- ・自然は無機、流通は人のにおい。
- ・自然に近い方法で栽培し、安心でおいしく少しでも安い野菜を提供して欲しい。
- ・自然なおいしさを味わえるきっかけになると思う。
- ・試食などをして、甘さや柔らかさの違いをアピールして欲しい
- ・私は家で食べる味噌は自分で作っている。有機肥料は10年も、もっと前からボカシを作って畑の野菜は全部ボカシを使っている。いろいろな野菜を作っているが甘みがあっておいしいと皆に喜ばれている。有機野菜なので生で食べても安全で喜ばれている。
- ・市でまとめて有機肥料を作って、安く生産者に分けて欲しい。
- ・産直市などで地産地消が少しずつ地域に広がってきているので、今後も学校等を通じて広めてほしい

- ・産直市などでは、生産者が表示してあるので選んで購入できるのがよいと思うが、本当に有機なのか疑問を感じることもある。農薬散布をしていても、自家用と販売用では区別があると聞く。消費者が安心して買えるように、信頼に足る情報提示をお願いしたい。
- ・栽培履歴が書かれた掲示板やパンフレットなどが有機農産物と一緒に置いてあると、手にとってよく見ようと思う。購入するかどうかは、価格、新鮮さ、見た目であり、再購入するかどうかは、味・品質の良さがどうであったかを思い出せるかどうかだと思う。良い方向で覚えていると継続的に購入するが、一度悪い方向で覚えてしまうと再購入はしない。口コミや噂なども同じだと思う。
- ・今治大丸跡地に、地産地消コーナーを充実させたお店を作る。地元の主婦や明徳短大の学生がいろいろな食材を使ったメニューを考え、それを提供できる食堂の隣りに、野菜コーナーを置くなどして、直接ふれあえる場所を提供すればよい。
- ・今治市は学校給食にも地元産を多く使用しており、食に対する意識は高いように思う。それをもっとアピールする場を設けて、市民によりよい品を購入してもらうよう推進事業を拡大してもらいたい。安ければよいという時代は終わったのではないと思うが、まだまだだと思う。アンケートをたくさんの人に知ってもらい、意識を高めることもよいことだと思う。
- ・今治市の運動公園等の施設に自分たちが育てたものを収穫でき、プロが時々管理してくれるような観光農園のようなスペースがあればいいのではないと思う。
- ・今は、自分で農薬を使用しないで作っているが、作ることができなくなれば有機農産物を購入したいと思う。
- ・行政機関と農業団体が一体となり推進して欲しい
- ・雇用について転換期だと思います。国・県・市として、このチャンスに農業支援を大きく行う。後継者問題、安全性が保たれ、子供たちの未来も明るくなる気がします。私も一歩ずつできることから始めてみます。
- ・現在有機食品のみを利用するのは無理なので、たとえ農薬を使っても何ヶ月かたつと無毒化されることを消費者に知らせることが大事。農薬を使用しないで野菜を作ることは無理。有機農業の推進は大事だが無理と嘘のない農業を推進することが大事
- ・減農薬や無農薬、有機食品へのニーズは高まると思うので、便利で使いやすいインターネット販売なども推進して欲しい。
- ・見た目ではなく、絶対自信のある所を明示して欲しい
- ・検査機関が検査を正しく手抜きしないで欲しい。表示だけでは信用できないので、近所の人にもらっている。薬を使っているしハウス野菜は気持ち悪い。同じ作物が一年中でもできるのはおかしい。
- ・健全な有機農業の確立は難しい課題ですが、この道こそ生き残る農業と思っている。日本の風土と国を守る大事業を成功させて欲しい。
- ・健康ブームなので、この野菜は体のどの部分にどのようにいいのかを表示すれば、体調にあわせて野菜を取りやすくてよい。
- ・形や色が悪くても品質に問題なければ販売すべき。
- ・業界上げての偽装にはうんざりしている。現在の技術で不可能ならそれをそのまま公にして真実を表示して欲しいと思う。消費者ももう少し賢くなって、見せかけより中身の良い物を求める風潮を作っていくようにしていきたい。
- ・規格がそろっていなくても少々の虫食いでもいいので、1個ずつ買いたい。トレーに並べて入れなくても袋でよい。
- ・学校給食も安全な野菜を材料として作ってもらいたい
- ・各スーパーに有機コーナーがあれば少し値段が高くて、そちらを利用したいと思う。有機農業をぜひ広げ、みんなが安心して健康に生活できるようがんばって下さい。
- ・各イベント会場などで試食会をしては
- ・家庭菜園の栽培を指導してくれる機関やシステムがあればいい
- ・家庭菜園で野菜を作っているのに、無農薬で野菜を作ることがいかに大変かわかる。市場で売するような野菜はなかなかできないと思うが、可能な限り、無農薬に近い有機農業を推進して欲しい。
- ・家庭菜園で、もう少し安く有機資材が手に入り、家でも作ったら購入時にも意識するかも
- ・家で食べるものくらいは自分で作れるようになりたいと思っている。そういう人たちとの交流や、農地の情報提供、勉強会などを実施して欲しい。
- ・家では野菜に網をかけたりして、農薬はほとんど使わない。肥料もなるべく堆肥や油かすを使用する
- ・価格の面で、もう少し安価になれば需要が増えるのでは
- ・価格が高いイメージがあるので、低価格で提供してもらいたい。
- ・飲食店、スーパーなど大量の残飯を肥料として利用したらよい
- ・一部の人は有機について理解をして頂いているが、やはり安いものにみなさん目をむけている気がする。見た目ではなく味がわかってもらえるにはしばらく時間がかかるのでは。
- ・一般消費者の関心を高める啓発活動が大切。今は、少々高くても安全・安心という方向に消費者の心は向いている。
- ・意識していなかったもので、改めて聞かれると分からないことが多かった。
- ・意見をアンケートで集める方法よりもっと良い方法を考えてほしい。いろいろなアンケートが役所から届くことが多いので。

- ・安全な食品であれば虫食いでも曲がっていてもよいので、本当に有機の野菜を流通させて欲しい。産直市で買ってもし時には古いものが入っている時があるので信用できない気がする時もある。
- ・安全な食べものが何より。日本産を安心して食べれるようになりたい。
- ・安全で価格の安いものができればそれに超したことはない。苦労も多いと思うが、よい有機農産物を作って欲しい
- ・安全であるなら一般の農作物で型が悪いからと廃棄せず、売れないのであれば安く購入できるようにしてほしい。定年後の人や転職者、失業者がより農業を始めやすくして、農業人口や国産品を増やしてほしい。作物の値段が下がって農家が困るのはわかるが、競争社会の中で農家だけ保護するのはおかしい。行政や農協が世界一安全な日本ブランドとして積極的に海外販売すれば作物の価格も上がるのでは
- ・安全で、お財布にやさしい品物がたくさん店頭に並ぶよう期待している。
- ・安心・安全な食べものを作ることが十分にできるような制度や環境が整うよう、そういった仕事につく人が多くなれるようになればいいと思う。
- ・安く、おいしく食べられたらそれでいい
- ・安かろう、何でも良かろうではなく、何の商品であっても責任をもって販売してほしい
- ・安いのが一番
- ・愛媛に住んでいて、台風も少なく、今治で取れた食べ物が口に入りやすい幸せを感じている。都会の子どもにもまず、健康が第一で、食べるものがいかに大切かということ、愛媛で食べていたものをなるべく食べるように心がけるよう伝えている。
- ・もっと有機農業のすばらしさをアピールすることが大切。知らない人も多いのでは。
- ・もっと宣伝をして（良いところを文面にする）、普通の野菜とあまり価格の差をなくすると良い。
- ・もっと市民に有機食品は安全であるということアピールして欲しい。いろんな食品にチャレンジして欲しい
- ・もっといろんな所で購入したい
- ・ほとんどスーパーでしか買い物をしていないので、スーパーに有機コーナーがあれば利用したい
- ・ほったらかしの木で作った見た目の悪い柿を親戚に送ったら、昔の本当の味がすると大変喜ばれた。本来そういう物をみんな求めているのだと思う。
- ・ふれあい農園のような試みは長く続けて欲しい。竹酢液など有機で使える資材が安く入手できるような方法を考えて欲しい。今までアンケートはあまり活かされないことが多かったと思うが、今回は食についてなので、特に努力してほしい。
- ・なるべく「地産地消」を心がけようと思っているので、よく利用するスーパーにもっと有機農産物や地元産の食材などを置いて欲しい。産直市にも行きたいが、小さな子供を連れて行くのは大変なので、身近なところにもっとあればといつも思う。
- ・なるべく、化学肥料などを使わない自然なもの（見た目だけでなく）、新鮮な地元の食材を広めて欲しい
- ・どの食材が安全なのかわからない。有機やアレルギーに気を使うからアレルギー体質の弱い子どもが増えるのでは？
- ・スーパーでも生産者コーナーで買う。
- ・さいさいなどで、「あの人のおはぎ」とか「この人の漬け物」というのをよく聞く。生産者の皆さんも大変な苦労で生産されているとは思いますが、やはり消費者の信頼を得ることが利益にもつながるものと考えます。ぜひ、安心して購入できる商品を生産して欲しい。
- ・これからも安心して食べられる野菜や果物、お肉や魚を地元で供給してもらえたら嬉しい。元々のトマト・キュウリの匂いなど、野菜の味がなくなったように思います。
- ・これからの子供が大人になった時に、もっともっと病人が増えるでしょう。そんな事がないように、体に良いものをもっと作って欲しい。
- ・キュウリが曲がっていても、野菜に穴が開いていても気にならない。それがかえって安全だと思っている。
- ・おいしいものを食べたい
- ・エコ野菜と有機野菜の違いや、どのように認定してもらおうのか知りたい。
- ・「食の安全」のため、有機農業をもっと推進して欲しい
- ・(有機農産物)と(一般の農産物)の違い。例えば野菜にすれば、含まれるビタミン等比較してどれだけ違いがあるかデータ等で消費者に分かりやすく説明した簡単なパンフレットの作成

7. まとめ

全体をとおして、年齢が高くなるにつれて健康への意識が高まり、健康への意識が高まるにつれて有機農産物に対する意識も高まる傾向が現れている。また、男性よりも女性のほうが健康や有機農産物に対する意識が高いこともわかった。

また、世代を問わず、自由意見にたくさんのご意見をいただいたことから、後をたたない産地偽装や農薬の残留といった食品の偽装を問題を受け、「食」に対する意識や関心が非常に高くなっていることがわかった。

今回の調査をとおして、有機農産物に対する意識をみると、

- 1) 有機農産物を買って食べる理由は、安全で健康にいいからであり、
- 2) 約半分の人是有機農産物が売ってある場所がわからなかったり、売っていても高価であるため、有機農産物を食べたことがない。
- 3) しかし、一般の農産物の1.2倍～1.5倍の価格で
- 4) スーパーなどに有機コーナーがあり、いつでも手軽に購入することができれば、半数以上の人利用してみたいと考えている。
- 5) また、特に有機農産物を求めたいと思う食品は葉菜類や果菜類である。

などのことが現れている。

一方で、「有機農産物」の定義やイメージは漠然としたものであって、「無農薬野菜」との区別がついていない人も多く、有機農業や有機農産物がどういったものか、はっきりとはわからない人が多数いることがわかった。

さらに、有機 JAS 認証を知らない人たちもあり、今回は調査をしていないが、「有機 JAS 認証を受けていないと有機と表示ができない」ことを知らない人も多くいるのではないかと推測できる。

これらのことから、今後はこのアンケート結果の分析を踏まえながら、有効な施策の展開を図っていく必要がある。

特に、消費者に有機農業や有機農産物に対しての正しい意識をもってもらい、有機農産物の価値を判断し、適正な価格で購入してもらえるように啓発を行う必要がある。

また同時に、有機農業の振興、有機農業により生産される農産物の生産拡大を図り、販売体系の整備を行うなど、生産、流通、消費、教育といったあらゆる側面から有機農業の推進を行っていかねばならない。

有機農産物に関するアンケート

今治市及び今治市有機農業推進協議会では、「有機農業の推進に関する法律」(2006年12月制定)及び「今治市食と農のまちづくり条例」(2006年9月制定)に基づいて、地域に有機農業を広げていくために、有機農業への参入促進、普及啓発活動、有機農産物の消費拡大を図るための運動などに取り組んでいます。

そこで、皆さまが、今、ご自身の食生活や有機農産物について、どのように思われているかご意見をお伺いし、今後の施策に反映させていきたいと思っておりますので、アンケート調査にご協力を賜りますようお願いいたします。

1. あなたの年齢・性別を教えてください。

性別 (男 ・ 女)

- () 20 歳代 () 30 歳代 () 40 歳代
 () 50 歳代 () 60 歳代 () 70 歳以上

2. あなたの職業について教えてください。

- () 建設業 () 製造業 () 電気・ガス・水道業 () 運輸・通信業
 () 卸売・小売・飲食業 () 金融・保険業 () サービス業 () 公務員
 () 農林業 () 水産業 () 自由業 () パート・アルバイト
 () 主婦 () 学生 () その他

3. あなたは、ご自分やご家族の健康にどれくらい関心をもっていますか。あてはまるもの一つに 印をつけてください。

- () とても関心をもっている。
 () 関心をもっている。
 () どちらともいえない。
 () あまり関心をもっていない。
 () まったく関心をもっていない。

4. あなたが、主に食材を購入する所はどこですか。上位2つに 印をつけてください。

- () 三越、高島屋などの百貨店。
 () フジ、サティ、M2、セブンスター、マルナカなどのスーパーマーケット。
 () Aコープやくみあいマーケットなどの農協系店舗。
 () アイコープ、えひめ生協などの店舗。
 () アイコープ、えひめ生協、ゆうき生協などの配送(共同購入)。
 () さいさいきて屋やふれあい市などの産直市や朝市。
 () 八百屋や魚屋などの個人商店。
 () 近所の農家などから購入、またはもらっている。
 () インターネットで購入。
 () 家庭菜園などで自給している。
 () その他 ()

5. あなたが、食材を選ぶときに注意していることは何ですか。あてはまるもの全てに 印をつけてください。

- 新鮮であること。
- 値段が安いこと。
- 産地や生産者が確かであること。
- 栄養が豊富であること。
- 生産履歴がはっきりしていること。
- その他 ()
- 安全であること。
- おいしさ。
- 地元産であること。
- 品質が日持ちすること。
- 自分やご家族の健康のためになること。

6. あなたは、野菜を購入する際に、その野菜の栽培過程における農薬の使用状況についてどの程度気になりますか。あてはまるもの一つに 印をつけてください。

- かなり気になる。
- あまり気にならない。
- どちらともいえない。
- やや気になる。
- まったく気にならない。

7. あなたは、安心して食材を購入するためには、こういった情報が重要であると思いますか。あてはまるもの一つに 印をつけてください。

- どのようにして栽培されたか、栽培履歴が公開されていること。
- 誰が作ったか、生産者の顔写真や氏名などが表示されていること。
- 第三者が認証した認証マークがついていること。
- テレビやお店の店員が勧めていること。
- いつも買っているお店で売っていること。
- 信頼できる産地で栽培されていること。
- その他 ()

8. 「有機農産物」についてお尋ねします。あなたは、「有機農産物」とはどのように生産された農産物だと思いますか。あてはまるもの一つに 印をつけてください。

- 堆肥などの有機物を使った土地で生産された農産物
- 栽培期間中、農薬や化学肥料を使わないで生産された農産物
- 2年以上、化学合成農薬と化学肥料を使っていない土地で、化学物質を使用しないで生産された農産物

9. あなたは、「有機農産物」に対してどのようなイメージを持っていますか。あてはまるもの全てに 印をつけてください。

- 農薬や化学肥料の残留の心配がないので、安心、安全である。
- 健康によい。
- 有機栽培は、自然環境にやさしい。
- おいしいくて栄養価が高い。
- 虫食いなどがあって、品質が良くない。
- 品揃えが限られている。
- 値段が高い。
- 一般の農産物と変わらない。

10. あなたは、スーパーなどで野菜を購入する際に、「有機野菜」や、「無農薬野菜」であることがどれくらい気になりますか。あてはまるもの一つに 印をつけてください。

- () かなり気になる。 () やや気になる。
() あまり気にならない。 () まったく気にならない。
() どちらともいえない。

11. あなたは、「有機JASマーク」(右図)のついた有機農産物を買って食べたことがありますか。あてはまるもの一つに 印をつけてください。

- () 意識して食べるようにしている。 12 へ
() 時々、購入して食べている。 12 へ
() 購入したり食べたたりしたことがない。 14 へ



有機 JAS マーク

12. 11で、有機農産物を買って食べたことがあるとお答えした人にお尋ねします。あなたが、有機農産物を買ったことがある理由は何ですか。あてはまるもの全てに 印をつけてください。

- () 健康にいいから。 () おいしいから。
() 安全だから。 () いつも買っているから。
() 家族のためだから。
() その他 ()

13. 11で、有機農産物を買って食べたことがあるとお答えした人にお尋ねします。あなたは、有機農産物を主にどこで購入しますか。あてはまるもの一つに 印をつけてください。

- () デパートやスーパーなどの小売店から購入する。
() 生協から購入する。
() 生産者から直接購入する。
() インターネットで購入する。
() その他 ()

14. 11で、有機農産物を買って食べたことがないとお答えした人にお尋ねします。有機農産物を買って食べたことがない理由は何ですか。あてはまるもの全てに 印をつけてください。

- () 売っているところがわからないから。
() 値段が高いから。
() 虫食いなどがあって、品質が悪いから。
() おいしくないから。
() 一般の農産物と変わらないから。
() 適切に農薬を使用して栽培した農産物の方が安全だから。
() その他 ()

15. あなたは、品目と内容量が同じで、「有機農産物」と「一般の農産物」が選べる時、「有機農産物」の価格がいくらくらいまでなら購入しようと思いますか。あてはまるもの一つに 印をつけてください。

- () 一般の農産物と同じ価格 () 一般の農産物の 1.2 倍の価格まで
() 一般の農産物の 1.5 倍の価格まで () 一般の農産物の 2 倍の価格まで
() いくらであっても購入する () いくらであっても購入しない

16. あなたが、「有機農産物」を購入する場合、望むことは何ですか。あてはまるもの全てに印をつけてください。

- いつでも、どこでも手軽に購入できるようにして欲しい。
- 品揃えや種類を豊富にして欲しい。
- 虫食いなどをなくして、見た目がきれいな野菜にして欲しい。
- 大きさや規格をそろえて欲しい。
- 値段を安くして欲しい。
- どのように栽培されたか、栽培方法を明示して欲しい。
- その他()

17. あなたが、「少しくらい高くても、有機で生産された地元産の食品を求めたい」と思うような食品は何ですか。あてはまるもの全てに印をつけてください。

- お米
- きゅうりやトマトなどの果菜類
- じゃがいもや大根などの根菜類
- みかん、梨などの果物
- 有機的に飼育された牛・豚・鶏肉
- 有機豆腐
- 有機味噌
- 有機ジュース
- その他()
- 有機小麦で作ったパン
- ほうれん草やキャベツなどの葉菜類
- 豆類
- しいたけなどのキノコ類
- 鶏卵
- 有機納豆
- 有機醤油
- 有機菓子

18. あなたは、地元産の有機食品を手軽に購入できる場があれば、利用してみたいと思いますか。あてはまるもの全てに印をつけてください。

- インターネットで注文できるような仕組みがあれば活用したい。
- スーパーや直売所で「有機食品コーナー」があれば利用したい。
- 特に利用したくない。

19. 食べ物の安全性の確保や、消費者の安心の確立、表示の信頼性の向上などに関して、あなたが行政や農業者団体、農業関係機関に言いたいことや要望があればご自由に記入してください。

20. その他、食べ物や有機農業の推進についてご意見や感想があればご自由に記入してください。

* お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

